

# SOCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

# SOCER TOCHIGI

(公社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0857 宇都宮市鶴田2-2-10  
鈴運メンテック(株)ビル2F  
TEL 028-688-8411 / FAX 028-688-8400  
URL <http://www.tfa.or.jp/>



# 「プレナスなでしこリーグカップ」 決勝トーナメント準決勝開催

※写真 2017年8月5日、栃木県グリーンスタジアム



## プレナスなでしこリーグカップ

記録広報委員会 村上富士夫

8月5日に県グリーンスタジアムで「プレナスなでしこリーグカップ」決勝トーナメントの準決勝を開催。サッカー女子なでしこリーグ国内最高峰のカップ戦の開催は本県では初めてとなり、1千人を超す観客がスタジアムに訪れた。

大会は準決勝2試合を行い、第1試合は浦和レッドダイヤモンズレディース対日テレ・ベレーザ戦。宇都宮市出身で元日本代表FW安藤梢を擁する浦和が2-2(PK5-4)で日テレに競り勝ち、郷土の栄誉が凱旋勝利した。安藤は先発出場し、前半からパスを受けたりドリブルで仕掛けたりし、後半終盤に交代するまで再三ゴールに迫る活躍をした。第2試合は、ジェフユナイテッド市原・千葉レディースが1-0でINAC神戸を下した。INAC神戸レオネッサのDF鮫島彩(宇都宮市出身)の活躍が期待されたが、日本代表活動のため出場しなかった。

浦和と千葉の決勝は12日、味の素フィールド西が丘(東京)で行われ、千葉が1-0で優勝した。



## 栃木トヨタカップ 第22回県サッカー選手権大会

記録広報委員会 村上富士夫

第97回天皇杯への出場が懸かる「栃木トヨタカップ第22回県選手権大会」(栃木トヨタ自動車特別協賛)が1回戦3月26日、準決勝4月2日、決勝4月9日の日程で県グリーンスタジアムを会場に、栃木SC(J3)、栃木ウーヴァFC(JFL)、ヴェルフェたかはら那須(関東リーグ)、社会人チームと大学チームによる県予選を勝ち抜いたFC CASA FORTUNA OYAMAのカテゴリーごとの4チームが出場して開催された。

栃木トヨタカップはこれまで8月に行われていたが、天皇杯の日程緩和の影響で今回から春の実施となった。

3月26日の1回戦はヴェルフェたかはら那須が3-2でFC CASA FORTUNA OYAMAに競り勝ち準決勝進出を決めた。ヴェルフェは前半に先制したが、CASAも後半早々に2ゴールを挙げて逆転に成功、しかしヴェルフェは後半中盤と終盤にゴールを挙げ、劇的な逆転勝利を収めた。

### 1回戦

ヴェルフェたかはら那須

3 (1-1, 2-1) 2

FC CASA

FORTUNA OYAMA



ヴェルフェたかはら那須





FC CASA FORTUNA OYAMA

4月2日の準決勝は栃木ウーヴァFCが1-0でヴェルフェたかはら那須を下し、決勝に進出した。栃木ウーヴァは延長後半ロストライム、途中出場のMF畠地健太が決勝点を挙げた。

#### 準決勝

栃木ウーヴァFC

1 (0-0, 0-0, 延長, 0-0, 1-0) 0  
ヴェルフェたかはら那須



栃木ウーヴァFC

4月9日の決勝は栃木ウーヴァFCが1-0で栃木SCを下し、5年連続9回目の優勝を手にした。栃木ウーヴァは前半開始から栃木SCにボールを支配されたが、前半41分にMF福田周平がミドルシュートを決め先制し、後半は全員の粘り強い守備で逃げ切った。

優勝した栃木ウーヴァは4月22日の「第97回天皇杯全日本サッカー選手権」に県代表として出場。県グリーンスタジアムで行われる1回戦で山形県代表のFCパラフレンチ米沢と対戦。

#### 決勝

栃木ウーヴァFC

1 (1-0, 0-0) 0

栃木SC



栃木SC



優勝した栃木ウーヴァFC

## 第97回天皇杯全日本選手権

記録広報委員会 村上富士夫

第97回天皇杯全日本選手権は4月22日に開幕し、各地で1回戦13試合を行った。

本県代表で5年連続9回目の出場となった栃木ウーヴァFC (JFL) は県グリーンスタジアムで山形県代表のFCパラフレンチ米沢 (東北社会人リーグ2部) に6-1で快勝し、4年ぶりに初戦を突破した。

栃木ウーヴァは前半だけで5得点。後半40分、相手のサイド攻撃から1点を失ったが、終了間際に1点を追加し危なげなく勝利した。栃木ウーヴァは2回戦に進出。6月21日に等々力陸上競技場 (川崎市) でJ1の川崎フロンターレと対戦する。

1 回戦

栃木ウーヴァFC

6 (5-0, 1-1) 1  
FCパラフレンチ米沢 (山形)



第97回天皇杯全日本選手権は6月21日、各地で2回戦32試合を行い、本県代表の栃木ウーヴァFC（JFL）は等々力陸上競技場で前回準優勝のJ1川崎フロンターレと対戦、0-2で敗れた。

川崎に細かいパスをつないで攻め込まれながらも、栃木ウーヴァは前線からの積極的なプレスで対抗したが、前半に先制を決められ、さらに後半に追加点をあげられてしまった。

栃木ウーヴァはあきらめず、ゴールを狙うも最後まで得点は奪えなかった。

2回戦

川崎フロンターレ (J1)

$$2 \quad (1 - 0, \quad 1 - 0) \quad 0$$

栃木ウーヴァFC

## 2017年の足跡～終盤戦を迎えて～

栃木ウーヴァFC

日頃から、栃木県サッカー協会をはじめとする皆さまには当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、チームスローガンに「不屈の魂」を掲げ、新たに12人の新加入選手を迎えて臨んだ2017年シーズンも、早いもので終盤戦を迎えました。

堺体制2年目ということもあり、昨シーズンからの一層のチーム力の積み上げと、経験のある期待の新戦力との融合で期待のかかったシーズンでしたが、怪我人が相次ぐ不運も重なり、JFLでは、

ここまで苦戦を強いられています。

とはいえ、シーズン序盤は、昨季からのチームの成長と、今後への期待を抱かせる試合も多くありました。

第4節 流経大ドラゴンズ龍ヶ崎戦では、攻撃陣が爆発し5-0というスコアで大勝。昨季より大幅に早い時期に幸先よくシーズン初勝利を挙げると、その勢いのまま、天皇杯栃木県予選（栃木トヨタカップ）決勝では、J3の栃木SC相手に、「勝つなら1-0」という狙い通りの戦いで、会心のジャイアントキリングを達成。

クラブ史上初めてJクラブを破っての価値ある5連覇で、5年連続天皇杯出場権を獲得。

その結果だけでなく、誰の目にも「今年のウーヴァは違う」という印象を植え付けられたゲームでした。

栃木県を代表して臨んだ天皇杯では、鬼門の1回戦を危なげなく突破。

2回戦ではJリーグ屈指の強豪クラブである川崎フロンターレと対戦する好機に恵まれ、最高の環境と雰囲気、最高の相手を前に、選手たちは躍動しました。

結果として0-2で敗れはしたものの、「栃木ウーヴァは良いチーム」「応援したくなつた!」という声も聞かれるほどの、死力を尽くした好ゲームでした。

しかしそれ以降、非常に苦しい状態が続くこととなり、栃木県を代表してウーヴァを中心とした混成チームで必勝を期して臨んだ国体関東ブロック予選では、1回戦で群馬県代表に敗れ、本戦出場の目標を果たすことができず、リーグ戦でも勝利を目前にして逃してしまうゲームがあるなど、厳しい戦いを強いられてきました。

それでも、2ndステージ第7節では、「不屈の魂」をチーム全員がピッチ上で表現し、クラブ史上初となる小山開催での勝利をもぎ取り、JFL残留への執念を見せる事ができました。

残り試合は1試合も落とせない厳しい闘いは続きますが、監督が常日頃口にする「全力を出し切ること。勝ち負けは後からついてくる。だから、全力を出し尽くしての負けなら受け止める」という言葉通り、監督・選手・フロント・サポーターが一丸となって最後まで全力で戦い抜きたいと思

います。

今後とも、ご支援・ご声援のほど宜しくお願ひ致します。



## 2017シーズンここまで振り返って

ヴェルフェたかはら那須 山本 奈

日頃より、栃木県サッカー協会、ホームタウンである矢板市のみなさまをはじめ、多くのご支援ご協力、そしてご声援をいただき誠にありがとうございます。

チームは9/19現在、リーグ戦17試合(18試合中)を終え、8勝3分6敗で順位を4位に付けています。リーグ戦は残り1試合。昨季の順位(4位)を越えられるよう全力で闘います。

今季、チームは堀田監督体制3年目、昨季から大幅な選手の入れ替えがなく、新加入選手もうまく溶け込み、試合をこなすにつれチームとしての成熟度が高まっていきました。7月のホーム4連戦では4連勝を達成するなど、着実に成長していると感じられる試合を多く展開できました。

また、9月10日(日)のホーム最終戦では、「100人チャレンジ」と銘打ち、クラブとして初の試みを行いました。開催にあたり、多くのご支援ご協力を得て開催することができました。観客数は目標である1000人には及びませんでしたが、これまでになくたくさんのお客様に試合をご観戦いただけたことを、今後にしっかりとつなげていきます。

10月には福井県で開催される全国社会人サッカーリーグ選手権大会に2年ぶりに出場いたします。今季JFL昇格を成し遂げるためにはこの大会で地域サッカーチャンピオンズリーグへの出場権を手にする必要

があります。全国の強豪チームが、同じく地域CLへの出場権獲得を目指して来る中で、みなさまに良いご報告ができるようベストを尽くしますので、結果を気にしていただければ幸いです。

また、クラブとしては、6月に(仮称)とちぎフットボールセンター設立に向け、矢板市に提案書を提出させていただきました。設立が決まれば地域のサッカー環境は劇的に変化するはずです。今後は矢板市に慎重に検討していただき、結論を待つ形となります。

クラブのほかの活動としては障がい者サッカーチームを5月に設立いたしました。現在は約20名のメンバーで月2回活動しています。選抜チームしかない栃木県の障がい者サッカーチームの受け皿になることを目的の一つに設立いたしましたが、参加しているメンバーは県内各地から参加しています。今後はさらなる活動内容の充実を図っていきます。

小学生チームであるU-12も6月の関東大会の県予選では3決定戦で敗れ4位となり、関東大会出場はなりませんでしたが、8月の北関東大会では優勝することができました。現在は11月の全日本少年サッカーリーグ県予選で3連覇を果たせるよう厳しいトレーニングに取り組んでいます。

このように振り返ると、まだまだ未熟なクラブではありますが、今季も多くの方々に支えられながら昨季から継続しているスローガン「共闘共感」の輪を広げることができたシーズンであると実感しております。応援していただいているみなさまに何らかの形で恩返しできるよう取り組んでいきます。そして、少しでも栃木県のサッカーを盛り上げられるよう努めていますので、県内のサッカー関係者のみなさまには結果等気にしていただけると幸いです。今後ともヴェルフェたかはら那須をよろしくお願ひいたします。



## 高校連盟より

### 栃高体連サッカー専門部委員長（男子）

小田林 宏至



現在、高校連盟は、62校が県高体連サッカー専門部に加盟し、活動しています。

大会は、高体連主催で4～5月に県総体兼関東予選、6月に全国高校総体予選、1～2月に県新人大会を、サッカー協会主催で8月に全国高校サッカー選手権栃木大会一次予選、10～11月に同2次予選、U-18ユースリーグ（4～12月）を実施しています。

今年度は、近年問題になっていた過密日程を解消するため、昨年まで10月～12月に実施していた地区新人戦を廃止しました。それに代わる行事として、各地区で研修会を実施する予定です。

ユースリーグは年度を重ねるごとに整備され、現在1～3部制で実施しています。内訳は、1部が10チーム、2部が10チーム×2グループで、それぞれ2回総当たりで実施し、1チームあたり年間18試合を行っているところです。また、3部は昨年度までの反省を生かし、今年度より、8～9チーム×6グループ2回総当たり方式に変更して実施しています。選手たちにより多くの試合出場の機会を与えるため、1校から複数チームの参加も認めており、年々盛り上がりを見せてきています。

ここ何年か関東プリンスリーグおよびプレミアリーグに本県代表が参加できない状態が続いています。本年度はプリンス参入戦を勝ち抜き、昇格を果たしたいと切望しています。

県内大会に目を向けてみると、春に県総体兼関東大会予選が行われました。

準決勝戦においてさくら清修高校が宇都宮高校に、宇短大附属高校が宇都宮白楊高校に勝利し、出場権を獲得しました。決勝戦は、勢いに乗るさくら清修高校が宇短大附属高校に勝利し、両校とも埼玉県で開催された第60回関東高校サッカーダ大会出場しました。

6月に行われた全国高校総体予選においては、準決勝第一試合で、栃木高校が小山南高校に勝利しました。続く第二試合は、真岡高校と矢板中央高校が対戦しました。正規の80分、さらに延長戦でも決着がつかず、PK方式で真岡高校が勝利し、決勝戦に進みました。決勝は真岡高校が試合を終始圧倒し、4対1で勝利し、全国大会出場を決め

ました。

真岡高校は、7月～8月にかけて開催された宮城インターハイに出場しました。

高校選手権栃木大会は、2次予選において、従来通りインターハイ予選ベスト8の高校に加え、U-18ユースリーグ1部の高校を今年度から推薦出場することとしました。

8月には、全国高校サッカー選手権栃木大会一次予選会が行われました。結果、13校が勝ち抜き、先ほどの推薦出場の11校とともに計24校が2次予選進出を決めました。

各校とも夏休み中は、遠征や合宿など、各大会に向けて強化してきたところです。

これからも、日々の練習に励み、上位大会で活躍できるよう、頑張っていることでしょう。

また、選手権栃木大会は、準々決勝戦からの有料化、準決勝からのテレビ放映と、高校サッカーを盛り上げて行こうと努力しているところです。

一方、課題も多く、前述した過密日程の問題、審判の数の問題、危機管理や安全対策及び公共施設の問題等が挙げられます。できるところから着手し、ひとつひとつ地道に努力し、解決に向けて高校連盟一丸となり進めていきたいと考えています。

最後に、こうした中で、全国でも活躍できるチームが育つとともに、日本を代表するような選手が出てくることを期待したいと思います。

## 初優勝！初出場！ 初勝利で終えた関東大会

さくら清修高校サッカー部  
監督 斎藤 竜偉

氏家高校と喜連川高校が合併し、さくら清修高校になって初めて県大会を優勝し、初めて関東大会に出場しました。初の上位大会進出でしたので、

「チャレンジと自分たちのサッカーがどこまで通じるか」を合言葉に初の関東大会に臨みました。

1回戦の明秀日立高校（茨城）戦では、相手のフィジカルを生かしたサッカーに押し込まれ、何度もピンチを迎ましたが、相手の隙を突き、PKを獲得し、その一点を全員で粘り強く守り、初勝利することができました。

続く2回戦の昌平高校（埼玉）戦では、力の差を見せつけられ、シュート1本しか打てずに終わってしまいました。1回戦、2回戦と全国大会に

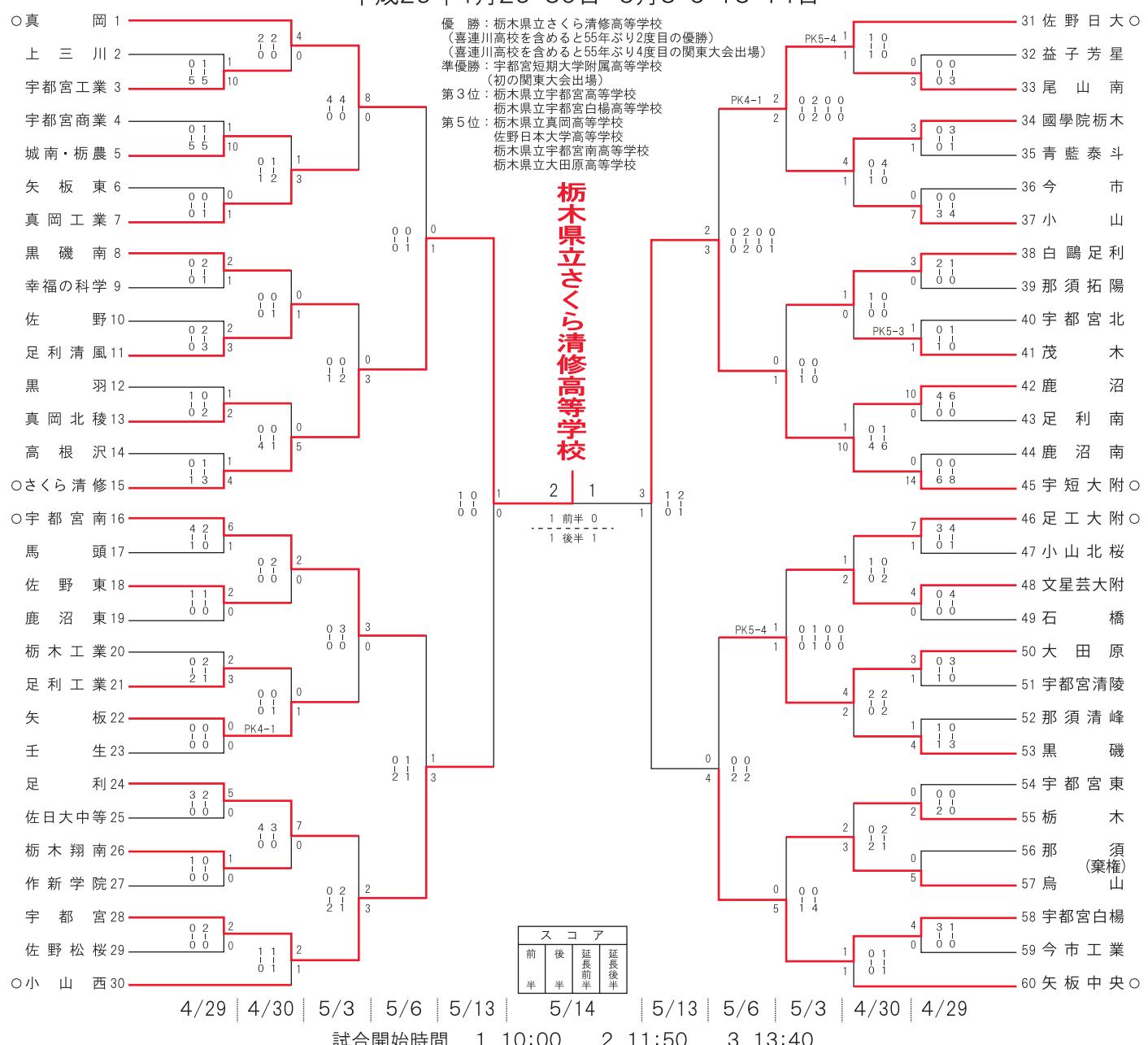
も出るような強豪校と戦うことができ、大変貴重な経験をすることができました。

終わりに、監督の私自身も今年3月に大学を卒業し、教員になって半年足らずで、このような経験をさせていただいたことは非常に光栄なことですので、関東大会で得た経験を生かし、今後のチーム強化、そして県全体のレベルアップに貢献できるように頑張っていきたいと思います。今大会を含め、お世話になっている関係者の皆様に感謝し、暑く御礼申し上げます。



## 平成29年度栃木県高等学校総合体育大会サッカー大会 兼 第60回関東高校サッカー大会県予選会 結果

平成29年4月29・30日 5月3・6・13・14日



# 2017南東北総体（宮城）に参加して

栃木県立真岡高等学校 監督 川上栄二

## -序-

今夏、本校サッカー部が県予選を4年ぶりに制覇し、通算10度目となる全国総体出場を果たすことができた。前回参加の北部九州総体（福岡）では3位入賞することができ、多くの方々から過分なるまでの期待を寄せられた点では多少の気負いもあったが、最低目標をベスト8がけの4回戦（市立船橋戦と想定）に設定し、本大会までにすべきことの準備を始めた。

## -準備-

県予選にてFW郡司とDF高橋の中心選手が怪我のため離脱し、本大会に間に合わないことが想定された。そのため大会本番では予選同様の戦い方である、4-5-1と4-4-2の併用、リアクションからのアクション、リトリートからのサイドアタックを採用せざるを得なかった。実際に予選期間において大きく成長した選手もいたため、1ヶ月の準備期間ではできることに制限があったが、現勢力で戦うことの決心もできた。

3回戦までの情報収集には多くの方々の協力を得ることはでき非常に助かった。初戦の中京大中京（愛知）、2回戦の広島観音（広島）、3回戦で想定される関東一（東京）、神村学園（鹿児島）と想定される相手のデータは全て入手し、大会前まではそれぞれのチームの背景やゲームコンセプト、中心選手を把握し対応策の概要はまとめておいた。

大会期間中の指定宿舎は夕食がなく、朝食に関しても簡易な内容のもので、近場のレストランでバランスを考え食事を摂るようにした。この際、本校の栄養指導に関わっているザバスには多くの協力を得た。また、試合終了後の疲労回復を図るために入浴の準備にも注意を払った。

## -本大会-

初戦の中京大中京戦は大雨の中の雨中戦となった。ボールは転がらない。序論で述べた4-5-1でのスタート、相手の様子を伺うリトリートからのリアクションでスタートした。思った以上に相手の動きが積極的で何本かの決定機を作られたが、後半巻き返しを図ることができゲーム内容も凌駕することができた。

次戦の広島観音に0-1で敗れ本校の総体は終了

した。戦い方は前述同様であるが、初戦よりも我慢のサッカーとなった。相手に決定機を作らせないような最新の注意を払い好機の演出を図った。実際、決定機も2本作ることができた。リスクを負わないような戦い方になってしまい、本意ではないがPK戦も視野に入れ始めた矢先、先取点を奪われ敗戦となった。

本校としては4年ぶりではあるが、それぞれの選手たちにとっては初出場の選手である。要所要所粘り強さは見せられるが、決定機に決めきれるだけのテクニックがないことを痛感した。これも経験不足からくる部分であろうと思った。

## -考察-

本校の総体は2回戦で終了したが、ベスト8中5チームが関東であり、ベスト4全てが関東勢という大会であった。それだけ関東のレベルは高く、サッカーの試合運びも大人のサッカーであった。ベースには質の高いポゼッションがあり、そこに選手やチームスタイルの特徴をいかんなく発揮させるチーム作りが主体となっている。本校は県内リーグ所属であるが、地域リーグ所属の中京大中京や広島観音と比しても遜色ない。

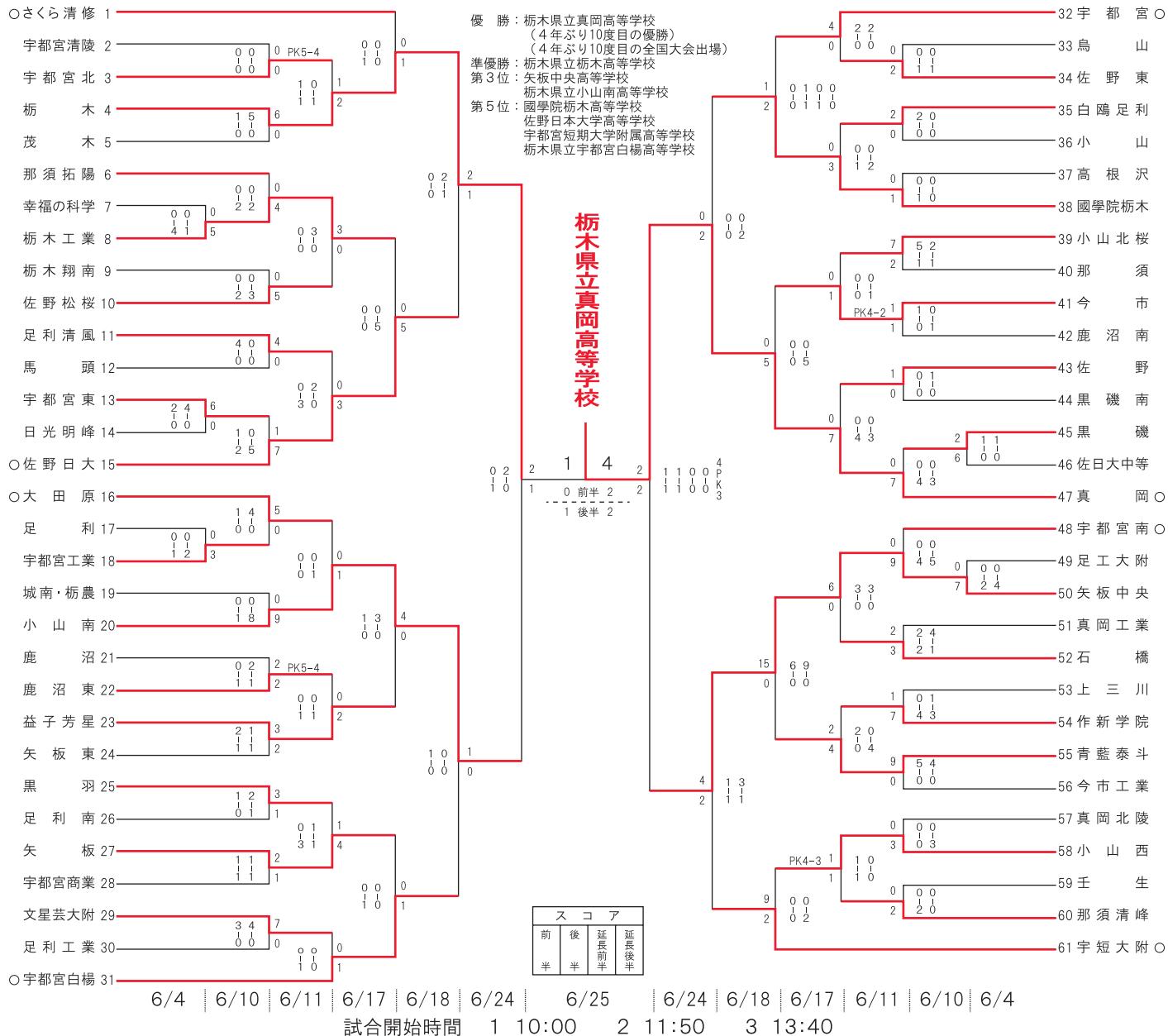
栃木のレベルは低くない。関東内での競争で勝ちきれない点で他のFAの後塵を拝すことが多いが、決して自信を失う必要はない。全国で勝つことも大変だが県内で勝つことの方がどれだけ大変かを、外の大会に出させてもらって痛感する。正直、矢板中央や栃木SCユースの方が断然強さや速さ、テクニカルな部分においても優位である。県内での切磋琢磨に手を抜かず継続する、できれば地域リーグに出場できるチームを増やしていく、そういう基本的なところを継続していくことで十分強化が計れると感じた。





平成29年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技県予選会 結果

平成29年6月4・10・11・17・18・24・25日



## 高校女子サッカーの普及

栃高体連サッカー専門部女子委員会委員長  
秋山 収

なでしこジャパンのFIFA女子ワールドカップ優勝（2011年）で一躍脚光を浴びた女子サッカーですが、2012年から全国高等学校総合体育大会（インターハイ）サッカー競技に女子が加わり、2013年からは全日本高等学校女子サッカー選手権大会がTBS系列で放送

されるようになりました（キャッチフレーズ「未来的な『なでしこ』高校最後の青春ドラマ」）。そのような流れの中で女子サッカーの全国高体連加盟校数は図1のように増加しており、高校女子サッカーは順調に全国に普及しつつあります。関東地方では現在、東京都46校、埼玉県36校、千葉県26校、神奈川県21校、群馬県17校、栃木県13校、茨城県9校、山梨県4校となっています。栃木県は関東地方では少ない方ですが、全国平均10.6と比較するとやや多いといえます。

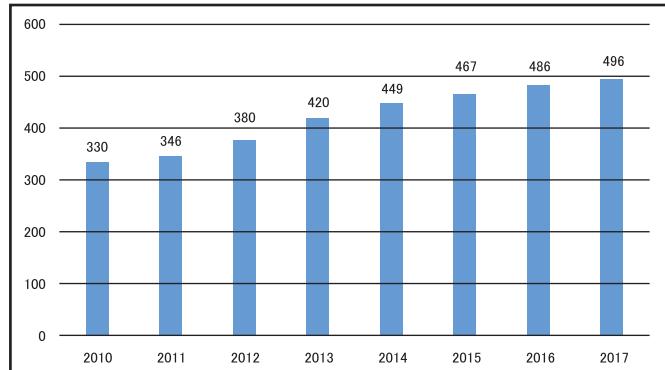


図1 全国高体連サッカー女子加盟校数  
(全国高体連サッカー専門部女子常任委員会資料より)

栃高体連主催の大会は、栃木県高等学校総合体育大会（4月～5月）、全日本高等学校女子サッカー選手権大会関東地区大会栃木県予選会（9月）（図2）、栃木県高等学校女子サッカー新人大会（1月）の年3回です。栃木県高等学校総合体育大会の優勝チームは、関東高等学校女子サッカー大会に出場でき、その関東大会で8チーム中3位までが全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に出場できます。また、全日本高等学校女子サッカー選手権大会関東地区大会栃木県予選会の優勝と準優勝チームが全日本高等学校女子サッカー選

手権大会関東地区大会に出場でき、その関東大会で16チーム中7位までが全日本高等学校女子サッカー選手権大会に出場できます。そして、この県予選会の3位と4位のチームは普及や育成を趣旨とした関東高等学校女子サッカー秋季大会に出場できます。



図2 全日本高等学校女子サッカー選手権大会  
関東地区大会栃木県予選会グループリーグより  
(2017年9月16日 SAKURAグリーンフィールドにて)

栃高体連主催の大会では、2016年からすべての大会でグループリーグの後に決勝トーナメントという競技方法に変え、どのチームも最低2試合はできるようにしました。また、できるだけ多くのチームが決勝トーナメントに進出できるように配慮しています。このように高校女子サッカーはまだまだ普及を意識しなければならない点が多いのが現状だと思います。前述した通り栃木県の高体連加盟校数は13校です。せめて隣県の群馬県（17校）くらいに参加校数を増やすことが現在の最大の課題だと思っています。勝利の涙あり、敗北の涙あり、まるで青春ドラマを地で行くような高校女子サッカー。これからもドラマを演出するつもりで選手達に感動を与え、その魅力を上手くPRして普及を図りたいと考えています。

## 第48回関東中学校サッカー大会（神奈川県） 第48回全国中学校サッカー大会（熊本県） に出場して

さくら市立氏家中学校 染谷 正明

《感謝と御礼》

平成29年度中学校総合体育大会において、幸運にも激戦を勝ち抜き、第48回全国中学校サッカー大会に出場することができました。本校サッカー部としては、2年連続3回目の出場となります。この出場にあたっては、たくさんの方々から物心両面にわたり御支援していただきました。栃木県

サッカー協会（3種）及び栃木県中学校体育連盟サッカー専門部の皆様には、対戦チームのスカウティングさらに技術的なサポートをしていただきました。また、氏家中学校サッカー部を卒業した先輩達が応援に来てくださったり、小学校で御世話になった方々や地域の方々から、暖かい励ましの言葉をかけてもらったり、差し入れをいただいたりしました。私が知らないところでもたくさんの方々に支えていただきました。大会では1・2年生の応援からたくさんの方々や勇気そして最後まであきらめないプレーする強い心をもらいました。また、生徒達を陰に陽に支えてくださった保護者の皆様、関東大会・全国大会では、朝早くにもかかわらずお見送りしてくださったり、猛暑の中遠方まで応援に来てくださったりして生徒達に暖かい励ましの言葉や元気を与えてくださった本校職員の皆様本当にありがとうございました。

#### 《チームの方向性（チーム作り）》

人とボールが連動して動くサッカーを目指し追求していました。

##### ① 出してもらうサッカーの徹底

オフザボールの時ボールウォッチャーになってしまふ選手が多いので、「出してもらう」という短い合い言葉にして、4対4のゲームやハーフコートのミニゲームをおこないました。攻守の切り替えを早くすることを心がけ練習を進めていきました。そのことで人とボールが連動していくことを指導の第1段階としました。

##### ② 攻守における「幅」と「高さ（深さ）」

指導の第2段階では、攻撃に際して幅をとり、チームとしてのギャップをつくり方を共通理解させ練習を深めていきました。ボールを奪ってからのセンターバックやボランチの距離、サイドバック・サイドハーフの横への広がり方、フォワードの深さの作り方などを繰り返し練習を行いました。

##### ③ ギャップの攻略

指導の第3段階として、チームで作ったギャップに人とボールを連動させて数的優位をつくり、相手チームを崩して得点を奪う練習を行いました。

##### ④ セットプレーの向上

ゲームを支配していても、なかなかシュートが入らなかつたり、リトリートしてくるチームに対して崩すことができなかつたり、なかなかゴールが奪えない試合に備えて、コーナー

やフリーキックなどのセットプレーの練習には、ある程度の時間を割きました。ボールの方向、距離、スピード、シュートを打つコース（ターゲットの設定）そしてブロック等々を細かく共通理解をして質を高めていきました。

#### 《サッカー環境》

本校サッカー部は学校に専用サッカー場があり、さらに市の施設として鬼怒川の河川敷に天然芝のサッカーグラウンドが2面、さらにさくらスタジアム等々環境にとても恵まれています。それらのグラウンドを大会や練習試合に、時には練習で使用させていただいています。これらの恵まれた環境が、生徒達の技術の向上につながっています。これらの環境を整えてくださったさくら市、さくら市教育委員会、さくら市サッカー協会等に感謝したいと思います。

#### 《終わりに》

2年連続で全国大会に出場できたことは、ジュニア世代の育成にかかわってくれた指導者の方々の指導の賜です。この場をお借りいたしまして指導者の方々に敬意を表すると共に感謝したいと思います。今後は、その指導に報いられるようさらなる高みを目指し、サッカーの指導に携わっていきたいと思います。

## 第48回関東中学校サッカー大会（神奈川県） 第48回全国中学校サッカー大会（熊本県） に出場して

小山市立小山第三中学校 清水 良祐

平成29年度、夏季中学校総合体育大会で準優勝し、神奈川県で開催される、関東中学校サッカー大会に出場することが出来ました。関東大会では、代表決定戦を勝ち抜き、関東第5代表として、熊本県で開催された全国中学校サッカー大会への出場を果たしました。本校は、関東大会・全国大会ともに13年ぶり3度目の出場となります。出場に際しまして、多くの方々から御声援や御支援をいただき、大変感謝しております。また、栃木県サッカー協会技術委員会及び、栃木県中学校体育連盟サッカー専門部の方々には、大会前の練習会での指導や対戦相手の情報供給、大会中のサポートや応援をしていただきましたことに、心から御礼を

申し上げます。

県大会においては、新人・春季・夏季すべての大会で準優勝でした。昨年度の新人と夏季の県大会で第3位となった経験を今年度は生かすことができ、昨年度以上の成績を残すことが出来ました。一度も優勝できなかったこともよい経験です。県の決勝で対戦した、雀宮中学校・市貝中学校・氏家中学校などのチームも素晴らしい、負けたことによってチームの成長につながりました。また、この3チームだけでなく、地区大会1回戦から対戦した全てのチームとの戦いが財産となり、全国大会へつながりました。対戦した全てのチームに感謝の気持ちでいっぱいです。

関東大会では、1回戦の山梨県代表・甲府城南中学校に2対1で勝利、2回戦の東京都代表・多摩大目黒中学校に1対2で敗退、代表決定戦の埼玉県代表・さいたま土合中学校に1対0で勝利しました。関東大会出場チームの半分以上は対戦経験がありました。県内・県外での招待試合に参加した際、対戦させていただきました。初戦の甲府城南中学校、代表決定戦でのさいたま土合中学校とは1度対戦したことがあります。城南中には勝利し、土合中とは引き分けという結果でした。1度対戦したという経験が、関東大会での勝利につながったと思います。各招待試合に参加させてくださった関係者の皆様、特に栃木県にいながら各県のトップクラスのチームとの対戦をする機会を与えてくださった関係者の皆様には、心から御礼を申し上げます。

全国大会では、近畿大会2位・滋賀県代表の仰木中学校と1回戦で対戦しました。先に2点を取り、2点を返され、前半を2対2の引き分けで終えました。後半終了間際に失点し、2対3で敗戦しましたが、十分戦えると感じたとともに、全国大会は簡単に勝たせてくれないということを実感しました。九州熊本県という遠いところにも関わらず、多くの人が応援に駆けつけてくださったことは、大変心強く感じました。1回戦で負けはしましたが、サッカーを通してたくさんの事を学ぶことができました。

最後に、大会で勝ち抜くためには、どれだけよい準備をして大会に臨めるかだと思います。この1年間、全国大会出場を目指して準備をしてきました。よい準備をするためには、保護者、先生、サッカー協会、学体連サッカー専門部等多くの方々の支援が必要です。あらためて、今まで支えてくださった全ての方々に心から感謝申し上げます。

## 2017関東ユース(U-15) サッカーリーグ1部残留

栃木サッカーラブジュニアユース  
花輪 浩之

“関東リーグ1部残留”がクラブとして掲げた今年最大の目標でした。12チーム中9位(8勝13敗1分)。これが栃木SCジュニアユースとして、そして栃木県勢の3種チームとしても初めて挑戦したリーグ戦の結果です。3種のリーグ戦は2種のプレミアリーグのような全国トップリーグはありません。しかし、8月に行われた日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会において関東地区代表の15チーム(内、関東リーグ1部所属は8チーム)は全て予選リーグを勝ち抜き、決勝トーナメントに進出しました(ちなみにベスト8は関東地区代表6チーム、優勝は九州地区代表のサガン鳥栖)。この結果をみても、3種においても関東という地区的レベルの高さは全国でもトップクラスの高さだと言えると思います。鳥飼がましいかもしれません、だからこそ、栃木SCの子供たちのためだけではなく栃木県内で頑張っている全ての子供たちのためにもこの場所に居続けたい、自信と勇気を与えてあげたい、その一心で選手・保護者・スタッフ三位一体で必死に戦いました。

開幕戦からの5連敗や日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会後の6試合勝ちなし(5敗1分)など、レベルが高い相手・リーグだからこそとても難しく、選手・スタッフも必死に考え、努力し、毎週末の戦いに備えました。ただ、その苦しみがあつたからこそ勝利できた時の喜びやそこから得られた経験は本当に大きかったと思います。関東予選を突破して3年ぶりに日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会に出場できたのもそれらの



経験が生かされた結果だったと思います。来年も苦しい戦いが予想されますが、選手・保護者・スタッフみんなでこの戦いを楽しみ、最高の成長の場にできるよう頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、ご協力いただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



#### 第4種委員会

#### ◇高瀬利明委員長あいさつ



4種委員会委員長の高瀬です。

日ごろから、県協会関係者様、チーム関係者様そして保護者の皆様には、大変お世話になっております。

さて、今年度は、7年ぶりに本県にて関東少年サッカー大会が開催されました。大会運営につきましては、多くの方々のご協力をいただき、無事に大会を終了することができました。厚く御礼申し上げます。

大会を総括しますと、ここ数年に見られるように、ハイプレッシャーの中での、確かな判断と技術が不可欠であることが再確認されました。優勝した埼玉県のレジスタFCを見ましても、ボールへの集散力と展開の予測力が高く、相手に思考もプレーも猶予を与えないサッカーが展開されていました。スマールエリアでの正確な技術やバイタル

エリアでのアイデアに優れたチームがたくさんありました。本県の少年サッカーのレベルも更にステップアップを目指していきたいと思います。

今後とも、本県のサッカーの発展のため、子どもたちの健全育成のために尽力して参りたいと思います。ご理解・ご協力をよろしくお願ひいたします。

### 第3回関東少年サッカー大会 栃木県大会



6月3日・4日・11日の3日間、大田原市の美原運動公園陸上競技場などで、関東大会への切符をかけて64チームが激突しました。

大会で決勝に進出したのは、栃木SCジュニアと同じく宇河地区のともぞうSCでした。熱い攻防が繰り広げられましたが、栃木SCジュニアが接戦をものにし、優勝しました。



＜優勝 栃木SCジュニア＞



&lt;準優勝 ともぞうSC&gt;



&lt;第3位 御厨FC&gt;



&lt;優勝 しおやFCヴィガウス&gt;



&lt;準優勝 ブラッドレスSS&gt;



## 第7回北関東U-12サッカー大会

8月5・6日群馬県にて北関東大会が開催されました。本県からは、ヴェルフェたかはら那須U-12（塩谷南那須）、FC中村（芳賀）、JFCアミスタ市貝（芳賀）、上松山クラブ（塩谷南那須）が参加しました。1位パートでヴェルフェたかはら那須U-12が見事優勝しました。FC中村、上松山クラブは2位パートで、JFCアミスタ市貝は3位パートで健闘しました。



7月15・16日の2日間、大田原市県北体育館などで栃木県大会が行われました。48チームが参加し熱戦が繰り広げられました。二日目の準決勝に勝ち上がったのは、しおやFCヴィガウス（塩谷南那須）、ブラッドレスSS（宇河）、ともぞうSC（宇河）FC中村（芳賀）でした。決勝は、しおやFCヴィガウス対ブラッドレスSSとの決戦となり、しおやFCヴィガウスが力を存分に発揮し優勝、全国への切符を手にしました。





### 第3回関東少年サッカー大会

8月19・20日、今年は栃木県にて大会が行われました。栃木県からは、栃木SCジュニア（宇河）、ともぞうSC（宇河）、御厨FC（両毛）の3チームが参加しました。栃木県勢は御厨FCが1位トーナメントに進出しました。栃木SCジュニア、ともぞうSCは予選リーグで奮闘しましたが敗退しました。



## ねんりんピック秋田2017サッカー交流大会

ブロック	都道府県・政令指定都市	チーム名
A	栃木県	栃木大昭サッカーカラブ
	佐賀県	佐賀県シニア選抜(0-60)
	北海道	北海道シニア60
	広島県	広島県選抜

試合	時刻	チーム	得点	チーム
(1日目) 第1	9:00-9:45	栃木県	2 ( 1 - 0 ) 0	佐賀県
(1日目) 第1	9:00-9:45	北海道	0 ( 0 - 6 ) 8	広島県
(1日目) 第5	12:40-13:25	栃木県	5 ( 3 - 0 ) 0	北海道
(1日目) 第5	12:40-13:25	佐賀県	0 ( 0 - 3 ) 3	広島県
(2日目) 第1	9:00-9:45	栃木県	4 ( 3 - 1 ) 2	広島県
(2日目) 第1	9:00-9:45	佐賀県	1 ( 1 - 0 ) 0	北海道

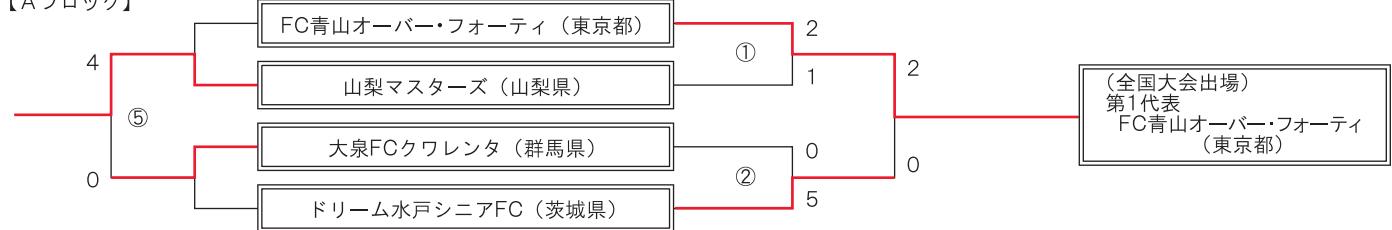
チーム名	栃木県	佐賀県	北海道	広島県	勝点	勝	分	敗	得点	失点	得失点	順位
栃木県		○ 2 - 0	○ 5 - 0	○ 4 - 2	9	3	0	0	11	2	9	1
佐賀県	● 0 - 2		○ 1 - 0	● 0 - 3	3	1	0	2	1	5	-4	3
北海道	● 0 - 5	● 0 - 1		● 0 - 8	0	0	0	3	0	14	-14	4
広島県	● 2 - 4	○ 3 - 0	○ 8 - 0		6	2	0	1	13	4	9	2

## 2017年度 第5回全国シニア（40歳以上）サッカー大会関東予選会 結果表

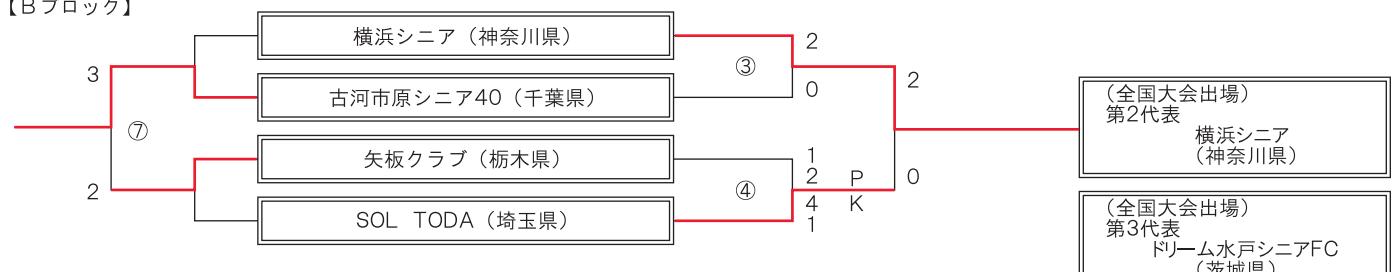
【開催日】2017年7月2日(日)

【試合会場】宇都宮市河内総合運動公園：陸上競技場・多目的広場

### 【Aブロック】



### 【Bブロック】



※得失点差

【試合時間】 1回戦 敗者戦(①~④⑤⑦) : 50分(25分-10分-25分)+PK戦

代表決定戦(⑥⑧) : 50分(25分-10分-25分) 延長戦10分+PK戦

マッチNo.	試合会場	キックオフ時間	対 戰 力 一 ド									備考欄
①	陸上競技場	10:00	FC青山オーバー・フォーティ(東京都)	2 1	vs	1 0		1			山梨マスターズ(山梨県)	A組 1回戦
②	多目的広場	10:00	大泉FCケフレンタ(群馬県)	0 0	vs	1 4		5			ドリーム水戸シニアFC(茨城県)	A組 1回戦
③	多目的広場	11:30	横浜シニア(神奈川県)	2 2	vs	0 0		0			古河市原シニア40(千葉県)	B組 1回戦
④	陸上競技場	11:30	矢板クラブ(栃木県)	1 1 2	vs PK	0 1 4				SOL TODA(埼玉県)	B組 1回戦	
⑤	多目的広場	13:00	山梨マスターズ(山梨県)	4 2	vs	0 0		0			大泉FCケフレンタ(群馬県)	A組 敗者戦
⑥	陸上競技場	13:00	FC青山オーバー・フォーティ(東京都)	2 1	vs	0 0		0			ドリーム水戸シニアFC(茨城県)	A組 代表決定戦
⑦	多目的広場	14:30	古河市原シニア40(千葉県)	3 1	vs	2 0		2			矢板クラブ(栃木県)	B組 敗者戦
⑧	陸上競技場	14:30	横浜シニア(神奈川県)	2 0	vs	0 0		0			SOL TODA(埼玉県)	B組 代表決定戦

## 2017年度 第16回全国シニア(50歳以上)サッカー大会関東予選会 結果表

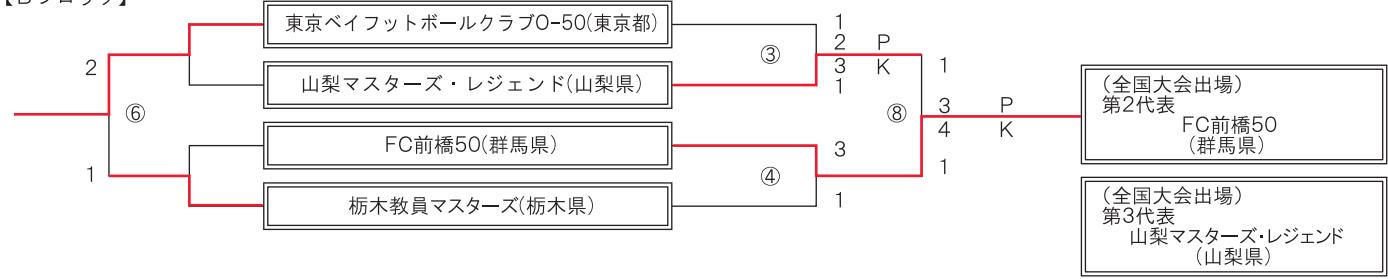
【開催日】 2017年4月30日(日)

【試合会場】 宇都宮市河内総合運動公園：陸上競技場・多目的広場

### 【A ブロック】



### 【B ブロック】



※抽選の結果

【試合時間】 1回戦 敗者戦(①～④⑤⑦)：40分(20分-10分-20分)+PK戦

代表決定戦(⑥⑧)：40分(20分-10分-20分) 延長戦10分+PK戦

マッチNo.	試合会場	キックオフ時間	対戦カード								備考欄
①	陸上競技場	10:00	FC船橋50 (千葉県)	1 0	VS	0 2	2	Azul神奈川FC (神奈川県)		A組 1回戦	
②	多目的広場	10:00	FC浦和シニア (埼玉県)	0 0	VS	2 0	2	ドリーム水戸 シニアFC(茨城県)		A組 1回戦	
③	陸上競技場	11:30	東京ベイフットボール クラブO-50(東京都)	1 0 2	VS PK	1 0 3	1	山梨マスターズ・ レジェンド(山梨県)		B組 1回戦	
④	多目的広場	11:30	FC前橋50 (群馬県)	3 2	VS	0 1	1	栃木教員マスターズ (栃木県)		B組 1回戦	
⑤	陸上競技場	13:00	FC船橋50 (千葉県)	1 0	VS	0 0	0	FC浦和シニア (埼玉県)		A組 敗者戦	
⑥	多目的広場	13:00	東京ベイフットボール クラブO-50(東京都)	2 1	VS	0 1	1	栃木教員マスターズ (栃木県)		B組 敗者戦	
⑦	陸上競技場	14:15	Azul神奈川FC (神奈川県)	2 1	VS	0 0	0	ドリーム水戸 シニアFC(茨城県)		A組 代表決定戦	
⑧	多目的広場	14:15	山梨マスターズ・ レジェンド(山梨県)	1 1 0 0	VS 延長	0 1 0 0	1	FC前橋50 (群馬県)		B組 代表決定戦	
				3	PK		4				

## 第12回関東シニア(60歳以上)サッカー選手権大会 戰績表

【試合会場】

茨城県ひたちなか市総合運動公園スポーツ広場A・B

【試合時間】 予選リーグ(①～⑫)：40分(20分-10分-20分) · 順位決定戦(⑬～⑯)：40分(25分-10分20分) +PK戦

試合日	マッチNo.	試合会場	キックオフ時間	対戦カード						備考
				チーム名		都県名		チーム名	都県名	
9/23 (土)	①	A	10:30	埼玉シニア60	埼玉	VS	富士吉田シニア60	山梨		A組 予選リーグ
	②	B	10:30	群馬FC60(西毛60)	群馬	VS	とち丸シニアサッカークラブ	栃木		A組 予選リーグ
	③	A	11:45	Lazos2011	東京	VS	日立フットボールクラブ	茨城		B組 予選リーグ
	④	B	11:45	神奈川四十雀サッカークラブ60	神奈川	VS	千葉四十雀サッカークラブ	千葉		B組 予選リーグ
	⑤	A	13:00	群馬FC60(西毛60)	群馬	VS	埼玉シニア60	埼玉		A組 予選リーグ
	⑥	B	13:00	とち丸シニアサッカークラブ	栃木	VS	富士吉田シニア60	山梨		A組 予選リーグ
	⑦	A	14:15	神奈川四十雀サッカークラブ60	神奈川	VS	Lazos2011	東京		B組 予選リーグ
	⑧	B	14:15	千葉四十雀サッカークラブ	千葉	VS	日立フットボールクラブ	茨城		B組 予選リーグ
9/24 (日)	⑨	A	9:30	富士吉田シニア60	山梨	VS	群馬FC60(西毛60)	群馬		A組 予選リーグ
	⑩	B	9:30	群馬FC60(西毛60)	茨城	VS	神奈川四十雀サッカークラブ	神奈川		B組 予選リーグ
	⑪	A	10:45	埼玉シニア60	埼玉	VS	とち丸シニアサッカークラブ	栃木		A組 予選リーグ
	⑫	B	10:45	Lazos2011	東京	VS	千葉四十雀サッカークラブ	千葉		B組 予選リーグ
	⑬	A	12:30	富士吉田シニア60	A4位	VS	神奈川四十雀サッカークラブ	B4位		7・8位決定戦
	⑭	B	12:30	群馬FC60(西毛60)	A3位	VS	千葉四十雀サッカークラブ	B3位		5・6位決定戦
	⑮	A	13:45	とち丸シニアサッカークラブ	A2位	VS	日立フットボールクラブ	B2位		3位決定戦
	⑯	B	13:45	埼玉シニア60	A1位	VS	Lazos2011	B1位		優勝決定戦

## 【戦績表】

※勝ち(○):3点 分け(△):1点 負け(●):0点

【A組】		埼玉シニア60 埼玉	富士吉田シニア60 山梨	群馬FC60(西毛)60 群馬	どち丸シニアサッカーカラブ 栃木	試合数	勝点	勝数	分數	負数	得点	失点	得失点差	順位	
1	埼玉シニア60 埼玉	<hr/>		4 - 0	1 - 0	3 - 1	3	9	0	0	0	8	1	7	1
2	富士吉田シニア60 山梨	<hr/>		0 - 4	0 - 5	0 - 7	3	0	0	0	0	0	16	-16	4
3	群馬FC60(西毛)60 群馬	<hr/>		0 - 1	5 - 0	0 - 3	3	3	0	0	0	5	4	1	3
4	どち丸シニアサッカーカラブ 栃木	<hr/>		1 - 3	7 - 0	3 - 0	3	6	0	0	0	11	3	8	2

【B組】		Lazos2011 東京	日立フットボールクラブ 茨城	神奈川四十雀サッカーカラブ60 神奈川	千葉四十雀サッカーカラブ 千葉	試合数	勝点	勝数	分數	負数	得点	失点	得失点差	順位	
1	Lazos2011 東京	<hr/>		1 - 0	2 - 0	1 - 0	3	9	3	0	0	4	0	4	1
2	日立フットボールクラブ 茨城	<hr/>		1 - 0	1 - 1	1 - 1	3	2	0	2	1	2	3	-1	2
3	神奈川四十雀サッカーカラブ60 神奈川	<hr/>		0 - 2	1 - 1	0 - 0	3	2	0	2	1	1	3	-2	4
4	千葉四十雀サッカーカラブ 千葉	<hr/>		0 - 1	1 - 1	0 - 0	3	2	0	2	1	1	2	-1	3

## 【順位決定戦】

【優勝決定戦】	埼玉シニア60	A1位	1	1 - 0 0 - 0	0	Lazos2011	B1位	優勝	埼玉シニア60
【3位決定戦】	どち丸シニアサッカーカラブ	A2位	2	1 - 0 1 - 0	0	日立フットボールクラブ	B2位	準優勝	Lazos2011
【5位決定戦】	群馬FC60(西毛60)	A3位	0	0 - 1 0 - 2	3	千葉四十雀サッカーカラブ	B3位	第3位	どち丸シニアサッカーカラブ
【7位決定戦】	富士吉田シニア60	A4位	0	0 - 1 0 - 1	2	神奈川四十雀サッカーカラブ60	B4位	第4位	日立フットボールクラブ
								第5位	千葉四十雀サッカーカラブ
								第6位	群馬FC60(西毛60)
								第7位	神奈川四十雀サッカーカラブ60
								第8位	富士吉田シニア60

キッズからとちぎのサッカーを  
～サッカーファミリー拡大の達成の為に～

県キッズ委員 大澤 寛之

## ◇キッズ委員会の活動

キッズ委員会の取り組みは、サッカーファミリーの拡大です。そのために県内各地で取り組んでいるフェスティバル・巡回指導※・キッズリーダー講習会の開催という三本柱があります。

その中の巡回指導は、キッズ委員が平日に幼稚園や保育園などを訪問し、サッカーならびに身体を動かすことの楽しさを伝える活動を、キッズ年代の普及の為行っています。ただ人員や予算も限られた中で活動しているので、満足のいく巡回の回数や県内のすべての地区に行けていないのが現実です。これは本県だけの問題ではなく、全国的

にも人員の確保等は難しいようです。

そこで今年、JFAはトヨタ自動車株式会社とJYDパートナーシップ契約を締結しました。トヨタの全国各販売店、共販店、レンタリース店などのスタッフのみなさんがキッズリーダーを取得し、巡回指導をサポートしていただることになりました。



本県では委員長が積極的に取り組み、全国に先駆けてトヨタ社員向けのキッズリーダー講習会を行いました。すでに巡回に参加していただいているスタッフもいます。まだ県内全域には巡回に行けませんが、これから巡回が出来る地区を増やしていきたいと思います。ご希望に添えるかどうかわかりませんが、巡回の希望があればお声かけください。

※巡回指導とは・・・地域の幼稚園・保育園等に対してサッカーならびに身体を動かすことの楽しさを伝えるための活動

#### ◇グラスルーツフェスティバル

ところで、みなさん『グラスルーツ』って知っていますか。『グラスルーツ』とは草の根、民衆の、と言った意味があります。グラスルーツフットボールは、みんなのもの。エリートフットボール以外のすべて、どこでもだれでも皆が関わってプレーされるものとされています。FIFAは、その名から“Football Is For All”と説明しています。グラスルーツなくして代表の強化なし。トップレベルサッカーを支えるものであり、その国のサッカー文化の厚さとなるもので、非常に大切にされ、組織的な取組がされています。JFAがグラスルーツ宣言をして、すでに3年が経ちます。



キッズ委員会でも、グラスルーツフェスティバルを年1度ですが県内の地区で行っています。なるべく初心者の子ども達を対象に参加を呼び掛けて、ワークショップ&ゲームを交互に行いサッカーの楽しさを初心者の子ども達に体験してもらいます。指導もキッズ委員とC・D級のリフレッシュも兼ねた資格をもった指導者に指導してもらっています。

昨年は青木サッカー場で行いました。参加者は県北地区の1・2年生、約200名が参加しました。初心者が約60%で、女の子も約15%の参加でした。参加した小学生、指導者研修会に参加していただけた指導者の方々も、とても楽しかったと、来年

も参加したいと言う声も多くありました。

今年は丸山サッカー場での開催になります。是非参加をお願いします。

#### ◇関東ジョイントミーティング開催

今年は、キッズの関東ジョイントミーティングが本県で10月末に開催となります。今回は池上正氏をお迎えして講演会を開催します。県ホームページで参加者を募集しますので、興味のある方は是非参加してください。



私たち県協会キッズ委員会では、いろいろな場面でキッズ年代の指導の大切さを発信していきますので、関心がある指導者の皆さん是非興味をもっていただければと思います。

## 第4回全日本ユース(U-18)フットサル大会 矢板中央高が全国制覇

8月17~20日に宮城県仙台市のゼビオアリーナ、カメイアリーナ（仙台市体育館）で行われ、矢板中央高サッカーチームが初出場で全国制覇を達成しました。

矢板中央高は栃木県予選に2チームをエントリー。2年生チームが延長で3年生チームに勝利し、関東大会（7月15、16日・茨城県）に進出しました。8チームにより争われた関東大会では、3試合全てで2得点を挙げる快進撃を見せました。準決勝でクラブチームの名門・PSTCロンドリーナU-18（神奈川）を10-2、決勝では鹿島学園高（茨城）も10-2で下して、関東1位代表に上り詰めました。

16チームが出場した全国大会で、4チームによる予選リーグを2勝1分けで1位突破。8チームによる決勝トーナメントでは、1回戦で柳学園高（兵庫／関西第1代表）を11-4、準決勝でフー

ガドールすみだファルコンズ（東京／関東第3代表）を7-3で相次いで撃破しました。長岡向陵高（新潟／北信越第2代表）との決勝はエース大塚尋斗選手のハットトリックの活躍で3-1と見事に勝利、栄冠をつかみました。

チームは大塚選手や守備の要・稻見哲行選手を中心となりました。恵まれた180センチの長身からゴールを量産する大塚選手に、ハードワークで相手のチャンスをつぶしていく稻見選手、そして飯島翼選手のチャンスマーク、GK吉沢亮選手の好セーブなどが優勝の大きな要因となりました。基本はフルコートのプレスで、攻守の切り替えを意識して戦ったといいます。

日本サッカー協会主催の「全日本大会」においては、栃木県勢としては久々の全国制覇で、全国大会で3試合連続ハットトリックを決めた大塚選手は、大会最優秀選手を獲得しました。帰郷後、選手たちは表敬訪問で福田富一知事からねぎらいの言葉なども贈られました。

この全国優勝を、高橋健二監督に振り返ってもらいました。



▲全国制覇を手にした選手たち ©JFA

フットサルに関しては、手探りの部分がありました。日頃、なかなか実戦の機会が巡ってこない選手たちにプレーの時間を増やしてあげようと、チームで希望を募ってチームを編成しました。矢板中央高サッカーチームOBで、現在、フットサル日本代表のGKを務める三浦拓（Fリーグ・エスボラーダ北海道）の存在も、チームとしてフットサルを始める要因の一つになりました。彼は9月にトクリメニスタンで行われた「第5回アジアインドア・マーシャルアーツゲームズ」でも銅メダルに輝いている注目選手です。

以前から体育の授業や雨の日の体育館トレーニングで、フットサルをしている選手たちを見ていて、足元の技術が高く、フットサルに才能を發揮しそうな選手がいることは気づいていました。攻



▲大会MVPを獲得した大塚のシュート ©JFA

守の切り替えや判断の速さや、対人の重要性などサッカーに通じるものがあり、私自身もフットサルに注目している部門はありました。今回、公式戦を見守り、改めてフットサルの持つ可能性を知ることができました。

全国制覇も日頃から自分たちがサッカーを目指している、パワーや対人、積極性などを出せた結果だと思います。大会最優秀選手を獲得した大塚も、彼の持ち味でもあるパワーを生かして奮闘してくれました。ただ、全国制覇に関しては予想以上の結果で、選手たちがよく頑張ってくれました。また、外部コーチとしてチームに帯同してくれたフットサルB級ライセンス所持の増子明男さんをはじめ、練習会場を提供してくれた大田原市の那須フットサルみどり、練習相手になってくれた栃木県フットサルリーグ所属の社会人チームなど、たくさんの方々にお世話になって勝ち取った栄冠だと思います。

今回の全国制覇は、出場した選手たちには大きな自信につながったはずです。私自身もフットサルの魅力に十分触れることができました。メインはあくまでサッカーではありますが、これからも選手のプレー環境を第一に考え、微力ですがフットサルの普及にも努めていきたいと思っています。



▲福田知事を表敬訪問した選手たち

全日本ユースフットサル大会においても、今後も外部コーチの増子さんたちの協力を得ながら2連覇を目指して頑張っていきたいと思います。

## 全日本女子ユース（U-15）選手権大会 栃木SCレディース全国3位

第22回全日本女子ユース（U-15）サッカー選手権大会が7月22日から8日間、大阪府堺市のJ-GREEN堺で行われ、関東第4代表として本県の栃木サッカークラブレディースが出場しました。

大会は全国9地区の予選を勝ち抜いた32チームが出場、国内最高峰の戦いを繰り広げました。2年連続4度目となる全国大会に駒を進めた栃木サッカークラブレディースも磐石の戦いを展開。2014年大会で残した全国3位と同じ好成績を残しました。チームを率いた久保田圭一監督に熱戦を振り返ってもらいました。

- 1回戦／栃木SCレディース 4－1 クラブフィールズ・リンダ（北海道第1代表）
- 2回戦／栃木SCレディース 4－1 ニューウェーブ北九州レディース（福岡／九州第1代表）
- 準々決勝／栃木SCレディース 4－0 熊本ユナイテッドSCフローラ（熊本／九州第4代表）
- 準決勝／栃木SCレディース 0－2 JFAアカデミー福島（静岡／東海第1代表）
- 3位決定戦／栃木SCレディース 0－0 (PK 5－3) ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール（神奈川／関東第2代表）

全国3位は選手たちの頑張りがあったからこそです。3月末に監督に就任して以来、「しっかりとボールを保持して、試合の主導権を握る試合」を目指していました。今大会で選手たちは、気温が



▲栃木SCレディースの選手たち

高い中でも、しっかりとボールを保持する戦いができました。それが3位に食い込めた大きな要因だと思います。

全国出場を決めた関東大会では、ボールを保持しているもののゴールを奪えず、課題が残っていました。それだけに選手たちは全国大会という大舞台で課題を修正して、しっかりと戦ってくれたと思っています。

全国大会は暑さとの戦いでもありました。試合のない日をうまく利用しながら、選手全員が集中して戦うことができました。また、昨年のこの大会を経験している選手たちが多く残っていて、コーチの丸圭吾も2年連続でこの大会に出ていたことは心強かったです。

準決勝のJFAアカデミー福島戦は、「前半は失点しないように戦おう。ボールを保持できていれば、きっと相手の足は止まる」と選手に伝えて臨んだ試合でした。いい展開で試合を運ぶことはできたのですが、後半に相手に与えたセットプレーから失点し、敗れてしまいました。

中1日空いての3位決定戦は、関東大会で負けているノジマステラ神奈川相模原との対戦でした。そこで大切にしたのは、戦術ではなく、関東大会で負けた悔しさを試合にぶつけることでした。相手は強豪チームです。試合ではボールを保持できない時間帯などもあり、厳しい戦いとなりましたが、PK戦にもつれ込む激闘の中で、主将のMF藤生理瑚を中心に最後まで集中を切らすことなく戦ってくれました。

今年の中学生3年生の世代の選手たちは、技術が高く、それを武器に戦いました。新チームはその代の選手のよさを最大限に引き出せるチームづくりを目指したいと思っています。この全国3位を自信にして、来年はもっといい成績が残せるよう頑張っていきたいと思っています。



▲PK戦の末に3位を決め喜ぶ選手たち ©JFA

# 地区協会活動活性化の意義について

栃木県サッカー協会理事（地区委員長）  
渡辺 孝

2017年6月10日付けで、栃木県サッカー協会理事（地区委員長）を仰せつかった佐野市サッカー協会副会長の渡辺孝です。私の考えている地区協会のあり方を次に述べます。

## 地区委員会の方針

確りとした地区または市町協会の組織化を奨励する。

各地域の協会の実態調査を実施した結果、地区協会の核は市町の協会（特に市）であることが判明しました。

日本中の地区・市町村協会が、「日本一サッカーが盛んな街」を競い合えば日本はブラジルやドイツのようなサッカー王国になると思います。

確りとした協会とは 協会としてのヴィジョン・目標を持っている。

役員・専門部組織（普及・技術強化・審判・キッズ・女子等）の確立。

総会・理事会の開催。

役員体制のマンネリ化を避ける。→人材を発掘し育てている。

事業報告・決算報告・予算案の作成・事業報告案の作成。

登録費を徴収して、財政基盤を確立している。

協会主催の大会やサッカーフェスティバルの開催を行っている。

普及活動・強化活動・審判員の育成派遣・競技場の整備要望活動を協会が主体となって取り組んでいく。

ホームページを開設して更新している。

法人化しているまたは法人化を目指している。

星野会長のサッカーファミリー4万人構想の実現ためにも地区協会の役割は大きいと考えます。県内では、ほとんどの地区市町の協会が、上記の方針をクリアして活発に活動しています。参考までに県協会HPのトップページのLINKから地区協会のホームページを見ることができます。

今後は未整備の地区協会の立ち上げと活性化を支援していきたいと思います。

## 否定的な意見

各連盟（少年・クラブ・中体連・高体連・社会人

連盟など）が主催している大会に出場できれば十分で、市や町の協会は必要ないという考え方をされる方もいます。

しかし、人工芝グランドや天然芝グランド整備の要望（署名陳情活動等）を実現できるのは、組織化された協会があつてこそ成しえると思います。小山市のフットボールセンター整備決定のためには、栃木・佐野・足利などの地区協会が強力に応援しました。足利市的人工芝グランド整備決定は、模範的に活動している「足利市サッカー協会」の努力の賜物です。

地区協会は現状ではボランティア組織です。専従の事務方や協会お抱えの指導者を持つのは無理です。ケネディの有名な演説を引用します。

「協会があなたのために何をしてくれるのではなく、あなたが協会のために何ができるのかを問い合わせなさい。」

## 他の文化・スポーツとの連携

今回、佐野市では、文化・スポーツの振興を図るために、佐野市サッカー協会が各文化・スポーツ団体に声をかけ、賛同を得た文化・スポーツ団体と共に共同の要望書を市に提出することになりました。これは各文化・スポーツ活動のための環境整備を行政にお願いすことと各団体の横の連携を図ることが目的です。全ての文化・スポーツ団体が協力することにより全市民の豊かな余暇活動を実現し、市の発展に繋がると信じます。

## 県協会・地区市町協会との交流会

この行事は、渡辺浩志前委員長の発案により、2014年度より実施しています。2014年は日光市、2015年は大田原市、2016年は栃木市で実施しました。今年度は、9月2日（土）に佐野市で実施しました。午後は、佐野市運動公園の人工芝で、県と地区的協会役員によるサッカー交流試合を行いました。今年は、佐野東高校女子サッカー部の協力を得て、役員対東高校女子サッカー部という形式で1時間サッカーを楽しみました。その後、ホテルサンルート佐野に会場を移し、県協会理事会と地区委員会を開催しました。夜は、石崎前会長始め退任役員の送別会を兼ねて、県協会と各市町そして地元協会役員の参加の元、盛大に懇親会を行いました。

地区協会の充実があつてこそ、栃木県のサッカーが益々盛んになり、日本代表で常に栃木県出身の選手が活躍しているという状況になると信じます。県と地区協会の連携のために微力ながら尽力したいと思います。



役員vs佐野東高校女子サッカーチーム



～ 来たれ若手審判員  
一緒に日本サッカーの発展を目指そう ～

栃木県内の審判育成・強化講習会（栃木県審判トレセン）は年間10回程行われています。この講習会は継続して参加できる方であれば、どなたでも参加可能です。（会場は宇都宮市内のコミュニティセンターや県サッカー協会事務所）

その他にもトップレフリーセミナーII（栃木県のトップクラスが参加）が10回/年、新3級審判フォローアップ研修会、登録更新講習会、各種別における講習会、ユース審判員対象のレフリースクール等、多岐に渡って行われています。

また、2級審判員対象ではありますが、関東主催の講習会が開幕前研修会を含めると、男子が7回（開幕前、関東高校、埼崎フェスティバル、関東中学、ミニ国体、関東社会人、スマートカップ）、女子も7回（開幕前、関東女子高校、埼崎フェスティバル、ミニ国体女子、関東女子選手権、高校女子選手権、スマートカップ）と8都県から集まって宿泊を伴って行われています。

これはJリーグで活躍している審判員も通ってきた道です。まず都県で活動して認められ、このような関東の講習会で評価され、1級候補となり、1年間かけて審査に臨み、合格すると全国大会規模の笛を吹けるようになります。そこで輝けば、JFL、J3、J2、J1担当へ、そしてFIFAへつながります。道のりは長くて厳しいです。

関東の研修会に出られる2級審判員はカテゴリー分けされていて、以下のようになっています。（カテゴリー分けは女子も同じです）



県協会理事会と地区委員会を開催



- G 1 : 1級受検者（2017年 栃木県1名）
- G 2 : 特別強化（栃木県なし）
- G 3 : 強化（栃木県2名）
- G 4 : 都県推薦（栃木県男子3名、女子1名）
- G 5 : 30歳以下（栃木県なし）
- G 6 : ベテランA（栃木県6名）
- G 7 : ベテランB（栃木県11名）
- G 8 : ユース（栃木県女子1名）

研修会への参加は関東協会よりカテゴリー毎の依頼が来て、それに従って県から派遣しています。

ところで、皆さん！各カテゴリーの人数（ ）内を見て何か感じませんか？

そうです！！一番の改善点は「G 5 : 30歳以下が0名である。」と言うところです。関東で活躍できる19歳～30歳までの2級審判員が今の栃木県にはいません。

栃木県の場合、国体も控えており、環境や指導体制は誇れるものがあります。現に1級受検に関しては過去3年間で3名（岩崎、手塚、荒川）が合格しており、これは全国レベルです。今年の受検者も必ず合格すると信じています。来年もチャレンジできる審判員がいると思います。

しかし、若手審判員の育成や発掘について遅れを取ってしまいこの現状となってしまいました。PRや上級審判になるための具体的な方法、審判の魅力など広報活動が足らなかったと反省しています。女子についてもこの部分が顕著であったと思います。

審判をやってみたかったけど方法がわからなかつた人、サッカーが好きで審判活動をやりたいけどきっかけが無かつた方、今が関東に出るチャンスです。まずは審判委員会へ連絡してください。栃木県サッカー協会へ問い合わせをすれば担当者を紹介してくれます。

審判トレセンやレフリースクールに参加し、4級から3級へ、そして2級へ昇格できるようお手伝いします。審判という形でサッカーに携わり、栃木県のそして日本のサッカーの発展に貢献しましょう。

～ 栃木県サッカー協会はユース審判員、若手審判員（男女）を求めています。 ～

## 審判50年を振り返って

県審判委員会・オフィサー 奥澤 浩



県自治体大会にて

「アマチュアに引退はない」。そういう言葉を聞いてはいるが、20歳から始めた審判活動が間もなく50年を終ろうとしている。ここ10年位は目標にしてはいたが、自分でも良く続いたと思っている。4級の前身「級外審判員」として1968年3月にスタートした「生活」だったが、それから公式戦だけでも3100試合を務めた。

中学2年生の秋、練習試合で納得の行かないオフサイドの判定があった。試合後に説明を求めたら、相手校の先生にいきなり往復ビンタを食らった。これが審判を志した最大の動機である。

昭和55年(1980年)の「栃の葉国体」。地元で開催される全国大会の笛を吹く事を夢見て、1級審判員を目指したが不合格となった。この大きな「2つの陰で」、ここまでやって来られた様な気がしている。

その頃県内には、現在の様な指導体制や環境は全く存在していなかった。私は、当時としては珍しく23歳で2級審判員になれた。そのお陰で関東の研修会には、毎年何度も参加させて貰った。そこで多くの事を盗み、そして学んだ。

試合前日にスパイクを磨くこと。試合の前後に選手や審判仲間と握手をすること。コルクを湿らすために、試合の3日前に笛を水に浸すこと。もっとも現在は「コルクの入った笛」を使用している人は、殆ど見掛けないが。これらは、私が初めて本県に持ち込んだものと自負している。今では当たり前になっている事なのだが。

時々「記憶に残っている試合は何ですか」と聞かれる。ミスをした試合、大変だった試合の事は今でも鮮明に覚えている。でも良かった試合の事は、殆ど記憶に残っていない。もっとも、良かった試合は

無かったのかも知れないが。

それでも1972年4月30日、県総合グラウンド陸上競技場（現在の陸上競技場ではない）での日本リーグ。藤和不動産－古河電工戦では、尊敬していた古河電工の故・宮本征勝さん（元日本代表）と同じフィールドに立てて感激した。

1993年8月に地元で開催された「栃木インターハイ」では、故・十河正博さんの温情で1回戦、利府（宮城）－韮崎（山梨）の笛を吹かせて貰った。韮崎には2年生の中田英寿選手が出席していた。終了間際になつたら急に涙が溢れて止らず、ボールや選手が滲んで見え非常に困った。今でも原因は良く分からぬのだが。

この時は、45歳で参加審判員の最年長だった。新装された県グリーンスタジアムでの準決勝、国見（長崎）－桐蔭学園（神奈川）の「線審」も務めた。好カードとあって、メインスタンドは超満員6000人の観客で埋った。白熱した試合は延長戦となり、やり甲斐を感じた。



「壬生夕顔杯」で西村さん相樂さんと

もう一つと言えば、やはり2000試合の時だろうか。1996年9月22日、壬生総合公園陸上競技場での県社会人1部リーグ、優勝の懸った矢板クラブ－揚蔵クラブの一戦。この日は台風17号が来ていた。フィールドは一面の水、ラインも芝生の部分も全く見えない。瞬間最大風速は39メートルに達した。高く蹴ったボールは、その場所より後方へ飛んだ。

後で聞いたら、この試合以外は全て中止だった。私も家を出る時に「今日は中止だろうな」と思っていた。しかし会場に到着したら、すでに両チームは熱のこもったウォームアップを行っていて、中止と言う雰囲気は全くなかったのである。

激しく気持ちのこもった試合は「引分けでも良いな」と思ったが、終了間際に決勝ゴールを決め

た矢板クラブが4－3で勝利した。終了後、負けた揚蔵クラブの何人もの選手が握手を求めてくれたのは、今でも忘れない。この様な悪条件の中で、良くも試合がやれたなと思っている。

「時代の流れ」と言えばそれまでだが。現在は多くの試合が芝生で行われ、一試合で2試合が基本である。私が審判を始めた頃は、試合時間は殆どが70分であったが、一試合で4試合が当たり前だった。宇都宮大学では5試合も行っていた。

専任の審判員などは皆無に等しく、当然審判は「チーム持ち寄り」で行い、審判割当など無かつた。そのために、審判をやりたければ何試合でもやれた。私は社会人の試合を一日5試合やった事はなかったが、笛・旗・笛・旗と一日4試合を日々やっていた。そういう時は昼食も摂れなかつた。

益子の旭光学グラウンドで行われた県社会人1部リーグ。この日は審判3試合目だった。得点が入ったので思い切り笛を強く吹いた。その瞬間、空腹で目の前が真っ暗になり、その場に座り込んでしまつた。当時は、得点の時には必ず笛を吹いていた。まだ「水は飲むな」と言っていた時代である。この頃は、年間130試合（主審94試合）

を務めた時もあった。社会人大会の最終日は、必ず準決勝・決勝のダブルヘッダーだった。今では笑ってしまうだろうが。



関東シニア大会にて

今は運営委員や会場責任者がいて、試合の運営もしっかりとされている。当時は、それら係の人は殆どおらず、審判員がライン引き、ゴールネット張り等を当り前の様に準備していた。ゴールネットは貴重品だったので、終了後は必ず外して畳んで収納した。ボールの圧力を計測する機器などはなく、両手の親指の感覚で計っていた。また競技場の中央部の延長1mには、必ず旗を立てていた。

試合後には、記録をまとめて新聞社に報告した。当時は下野と栃木の2つの新聞社が存在していた。

その頃、私には何の連絡手段もなく、「公衆電話」からだったり、時には新聞社に直接持ち込んだ。

毎週毎週こう言う事の連続だったので、私がミスジャッジをしても選手は怒らなかったのかも知れない。私は幸いに、その様な場面に遭わなかつたが、判定ミスをして選手から「後で待ついろ！」と脅された審判が何人もいた。規律委員会など存在していなかつた時代である。

審判50年間を振り返って、何か「自慢出来るもの」と考えてみたが、思い浮かぶものは無かつた。栃木県社会人リーグは、昨年「第50回大会」を迎えた。69歳であったが丁度良い区切りだったので、90分の試合は昨年限りで退いた。晩年は2部リーグを担当したが、1部リーグの主審は142試合を務めた。もちろん他の試合は続ける積りでいたが。しかし良く考えたら、社会人の試合は殆どが90分で、その他の試合は余りないのである。

体力・走力のなかつた私は、とにかく走った。トレーニング方法などは何も知らなかつた。「精神論」だけだったかも知れない。若い頃（今でも自分では若いと思っているが）は試合前日でも、試合の翌日でも走つた。

大宮サッカー場での関東大学リーグの主審だけでは物足りなくて、姿川中学校で1試合吹いてから出掛けた。今思い出すと冷や汗ものだが。1級挑戦が見えて来た頃には、毎日15～20kmを走り、月間400kmは走つていた。

特に悪条件の時には、敢えて意識的に走つた。「この天気の中では誰も走つていないだろう」と思つて。走り過ぎたのだろうか、この頃2度血尿が出た。

藤沢市で行われた国体関東予選（現ミニ国体）の時には、神奈川県審判界の口煩い長老から「試合でこんなに走る審判は初めて見た」と言って貰つた。少しは皆に追い付いた気持ちになった。

晩年でも長く続けて來た習慣は変えずにいた。割当がなくとも、いつ届くか分からない試合のために、週3～4回のトレーニングは欠かさなかつた。私はスピードは無かつたが、スタミナはある程度維持する事が出来た。その証拠に2級最後の体力テスト、55歳でのクーパー走は3030mを記録した。

その影響だろうか。高校卒業の時、私の体重は55kgであった。その後の50年間、60kgをオーバーする事は無かつた。もっとも体重が60kgを超えたら、審判を辞める覚悟でやっていたのだが。

それと、今は自由に活動させて貰つてゐるが、2級定年だった55歳までの35年間に、割当をキヤ

ンセルしたのは3回だけだった。自慢と言えるものは、これ位だろうか。（あまり自慢にはならないな。）



孫のような若手審判員と  
(左から小田、藤田、奥澤、阿久津、杉山)

ここまで、何が私を突き動かしたのだろうか。それは間違ひなく「仲間」の存在だった。こんな私に対して、節目の試合では仲間が盛大に祝つてくれた。それよりも、困難な場面に出遭つた時に、前進する勇気や元気を与えてくれた。審判をやつていたお陰で、普通では会う事が出来ない人達とも話が出来た。これらが、私の人生の大きな財産と言えるだろう。形としては何も残らなかつたが。

「たかがサッカー、たかが審判」と思つてやつて來たが、人生の殆どの事を犠牲にして、身体を張つて、命を懸けてやつて來た。現在、国際副審の相樂亭さんは「プロ」として世界で活躍している。私はアマチュアの審判活動であったが、「気持ちだけはプロ」の積りだつた。そう考えると「されどサッカー、されど審判」だったのかも知れない。

諦めの悪い性格は、誰かに「いい加減に、もう辞めろよ」と言われるまで、もう少し続ける積りでいる。「審判とは」を追求して、もう少し上手くなりたいとも思つてゐる。



## イングランド留学を終えて

関東強化2級審判員 藤倉 健

前号のSoccer Tochigiでご報告した通り、2016年9月からイングランドのボーンマスへ留学していました。約9ヶ月の長く短い滞在を終えて7月2日に帰国しました。1シーズンthe FAの審判員として活動させていただき、収穫の多い、非常に充実した9ヶ月となりました。

イングランドでは主審20試合、副審9試合の計29試合を担当させていただきました。シーズン終盤にはドーセット州の比較的大きな試合もさせていただき、Conference South(イングランド南部リーグ)への昇格がかかった試合も担当しました。順位が確定しているアウェイチームと、勝てば昇格が決まるホームチームの対戦で、クラブの関係者や観客が多く詰め掛けた試合でした。90分の時点で2-1でホームチームが勝っており、何事もなく終わりそうな試合でしたが、アディショナルタイム2分に抜け出したアウェーの選手をホームの選手がペナルティーエリア内で引っ張って倒し、私はPK・退場を宣告しました。6、7人の選手たちが必死の形相で抗議に来て、その囲いは2分ほど解けませんでした。結果的にPKは決まり、引き分けたためにホームチームの昇格は無くなりました。試合後にうなだれる選手やサポーターを見ながらロッカールームに引き上げるときは苦しい気持ちもしました。結果的に今回の判定は正しいものでしたが、主審が下したたった1つの判定で、チームのシーズンの明暗が別れる場面を実際に経験し、私たち審判員は本当に強い責任感を持って試合に臨まなければならぬと再確認しました。

また、4月にはドーセット州のチャンピオンを決めるカップ戦の準決勝主審、決勝の副審を担当させていただきました。イングランドに来たばかりの頃は英語ろくに理解できず、1試合を無事に終わらせることがやっとでしたが、いつの間にか適応することができ、最後にはフットボールを心から楽しんでレフェリングをすることができるようになっていました。日本とは大きく違うスタイルで非常に激しいフットボールを体感できたことで、私自身のレフェリング観にも変化が生まれたと感じています。これを今後の糧にしたいと思います。

9ヶ月間の留学を通して感じたことは、フットボールに関わる全ての人々が、非常に強くフットボールを愛し、そのスポーツをより良いものにしようとしていることです。選手、スタッフ、審判員、

サポーター、メディアなど、誰しもがフットボール心から楽しみ、良いことには惜しみない賞賛を、悪いことには容赦ない批判をし、それを皆で議論してフットボールという競技をより素晴らしいものにしています。これこそがイングランドがフットボールの本場と言われる所以だと感じました。スタジアムでもパブでも家庭でも、全員が熱くフットボールを語れる環境があり、そんな文化が日本にも根付く日が来る事を夢見ています。

今回の留学を通して、本当に多くの方々に支えられていることを実感しました。この経験を最大限に活かすとともに感謝の気持ちを持ち続け、日本のフットボール文化醸成のために微力ながら力を尽くしていく所存です。今後ともご指導の程宜しくお願ひ致します。



ドーセット州カップ戦決勝にて



マンチェスターU vs エバートン  
@オールド・トラッフォード



## これまでの審判活動を振り返って

2級審判員 小島 伸一

私が審判活動を開始したのは、今から13年位前の息子が小学3年生になった時でした。小学2年生の秋に、突然サッカーを始め、練習を見ていた時に、お世話になっているチームのコーチから、次に見に来る時から、ジャージを着てきてと声を掛けられたことが、審判活動を始めるきっかけとなりました。サッカー経験のない自分でも大丈夫だろうか？大きな不安を抱えながらのスタートを切りました。いわゆる、お父さん審判となりました。幸いにも、息子がお世話になっていたチームは、スタッフが大勢おり、3級審判員の方も数名帯同されていました。土日の練習試合には、殆ど帯同して審判の練習を行い、常に同チームスタッフ数名の方から指導頂きました。今、振り返りますと、とても恵まれた環境の中で、審判活動を行うことが出来ました。1年間で、200試合程度の試合を経験させて頂いたと思います。そして、いつも気にかけて、指導して頂いたお蔭で、翌年には3級審判員になることが出来ました。昇級を機に、北那須少年サッカー連盟の審判委員会に所属し、多くの経験を積み、徐々に県の派遣審判員となりました。3級審判員になって、4年が経つ頃に、帯同しているチームが、ジュニアユースを立ち上げ、ジュニアユースの帯同審判が、メインとなっていきました。

当初は、少年とのピッチの大きさ・スピード・展開の巾の違いに戸惑いましたが、試合を重ねるごとに、徐々に解消されました。そして、クラブユース連盟の審判委員会にお世話になることに。しばらくして、社会人連盟の審判の手伝いをやってみません



クラブユースの審判員達と左端から  
添田委員長、筆者、廣田審判員、手塚審判員

かとお誘いを頂き、上級審判員の方々と組む機会が多くなり、とても勉強になりました。そして、多くの皆様に指導を頂き、2級審判員になることが出来ました。

お父さん審判の皆様、これまでの経験を生かして、他のカテゴリーに挑戦してみませんか？

## レフェリースクールについて

第2種審判委員長 高山啓義

日頃より第2種審判委員会の活動についてご理解をいただいている皆さんに厚く御礼申し上げます。第2種審判委員会よりレフェリースクールについて報告いたします。

レフェリースクールは、第2種内においてユース審判員の活用を主な目的にして平成27年度に創設しました。現在JFAからユース審判員の積極的な活用を求められる中で栃木県内でもその要求に応じができるようユース審判員の量と質の確保の観点から指導・育成の環境を整えました。

ユース審判員の活用を第2種内で始めたのは平成17年度からです。それ以前から高校生でも審判員の資格を取得することができましたが、明確に第2種内で高校生審判員を指導・育成するところが12年前です。初年度は男子高校生2名でスタートしましたが、そのうちの1名は平成27年度に1級審判員になりました。

レフェリースクールの活動内容は審判実技を中心です。県内公式戦や練習試合等の審判を行い、インストラクターから指導を受ける形式です。今年度は12名で活動しており、第2種の顧問の方々にご理解をいただき指導育成を行っています。特筆すべきは、ユース審判員を第2種のトーナメント（インターハイ県予選や選手権県予選等）に割当しているのは関東では栃木県だけです。6月に行われたインターハイ県予選の準決勝の第4の審判員はユース審判員が担当しました。

しかし、レフェリースクールにもいくつかの課題があります。まずは、ユース審判員の量と質です。ユース審判員の活用において最も難しいのは、判定ミスが起きた時の責任の所在です。大人の顧問と違って高校生のユース審判員では、判定ミスの反響が大きく違います。多くのユース審判員を確保したいところですが、レフェリーとしてのレベル向上を考えた時にユース審判員の量と質のバランスは大切だと思います。次に、ユース審判員を取り巻く環境です。ユース審判員の移動手段は

保護者の送迎がメインになります。保護者の方がいつでも送迎できるとは限らないためにインストラクターが出向いて指導する形式もあります。事故等が起きた時の保険加入なども解決していくたいと思います。

レフェリースクールの今後ですが、第2種内においての2つの制度上の変更に対応していきたいと思います。まずは、ユース審判員の4級審判員資格取得料金の減額です。これによりユース審判員を誕生させやすくなります。次に、さらなるユース審判員の積極的な活用です。関東ではリーグ戦1部でも副審は高校生が行っているそうです。栃木県でも将来リーグ戦1部の副審はユース審判員が担当できるようにレフェリースクールの活用を行うことによって、量と質の課題も克服できるのではないかと思います。

昨年度までは鹿児島県で行われる全日本少年サッカー大会には各県1名派遣の割当でしたが、今年度より地域選考会を行い関東からは6名のみしか派遣されなくなりました。レフェリースクールの活用も3年目になりましたので、派遣するだけではなく全国大会の決勝戦を担当できるユース審判員の指導・育成を第2種や第3種の顧問の方々のご理解をいただきながら進めていきたいと思います。



レフェリースクールの夏期スクーリング風景  
右から藤田和真、飯島陽来、大和田翔梧



ユースリーグ3部 主審 藤田和真

## サッカー2級審判員として

サッカー2級審判員 金子哲也

私がサッカー4級審判員の資格を取得したのは18歳の時でした。



地元の先輩が社会人サッカーチームを結成、そのチームに誘われ加入しました。チームを登録するには審判資格を保有している人が必要で、チームから5、6人が審判資格を受験しました。資格取得後は、地区のリーグや社会人3部リーグなどで選手としてプレーしながら、年に数回チームが審判担当の時に審判を行う程度でした。

審判デビューをした試合のことは今でも昨日のことのように覚えています。地区のリーグ戦でした。

結果から言いますと、「最悪の審判デビュー」でした。選手には文句を言われ、暴言も言われ、胸ぐらをつかまれるという内容でした。

今振り返ると審判をするということに対する考えが甘かったと思います。服装はだらしない、態度は大きい。「ファウルだけ取っていれば大丈夫だろう。」、「別に遠くからでも判定できるだろう。」という考えがありました。そんな甘い考えが選手にも伝わっていたのだと思います。

本格的に審判活動を行うようになったのは3級昇級試験を受けようと思ってからでした。約10年間社会人チームでプレーをしてきましたが、試合になかなかメンバーが集まらずチームの活動も減っていました。ずっとサッカーとは関わっていきたいと考えていたので、審判でサッカーと関わっていこうと考え本格的に審判活動を始めました。

3級を取得してからは、県の審判トレセンに参加したり、県リーグの割当を受けたり活動の幅が広がりました。審判インストラクターの指導を受けたり、普段Jリーグを担当している上級審判員の方と一緒にゲームを担当出来たり刺激がたくさんありました。

2級昇格の話をいただいたのは3級になり2年目でした。インストラクターの方から「2級に推薦したいと思う。」と伝えられました。推薦の話をいただいたときはとても嬉しかったことを覚えています。しかし同時に、「今日から死に物狂い

で勉強しろ。トレーニングしろ。」と言われ一気に緊張が高まりました。競技規則は毎日持ち歩き、時間があるときに読みました。トレーニングも休日、仕事帰りに時間を作り行いました。

2級試験は関東地区の審判員が集まり試験でした。競技規則テストと体力テストでした。体力テストは普段からトレーニングを行っていたので問題はなかったのですが、競技規則テストはその年に大幅な改正があり不安でした。合格発表まで心配したが約1週間後に合格の連絡があり、昨年の秋に無事2級に昇級することが出来ました。

今年から2級審判員として活動していますが、今後の目標としては県1部リーグや関東社会人リーグなどよりレベルの高い試合を担当することです。そのために普段から競技規則の勉強やトレーニングに励みたいと思います。また、審判員として重要な「人間性」に関しても高められるよう努力したいと思います。4級を取得した頃は服装や言動などを意識したことはありませんでした。審判を経験してきて選手に信頼されるようになるにはルールを知っていることやよく走ることはもちろん、人として立派だなと思われる事が大切だと感じました。サッカーだけではなく人間としても成長し、審判員としてさらに成長したいと思います。

最後にこの場をお借りして、普段一緒に試合を担当する審判仲間のみなさま、指導してくださるインストラクターのみなさま、選手のみなさまにはお礼申し上げたいと思います。今後も審判員として栃木県のサッカーに貢献出来るよう精進しますのでよろしくお願ひ致します。

## JFA フットボールフューチャープログラム(FFP) トレセン研修会U-12 ～育成担当インストラクター研修会に参加して～

3級審判インストラクター 館岡孝弘

8月2日（水）から8月6日（日）5日間の日程で静岡県裾野市において開催され、JFA フットボールフューチャープログラムトレセン研修会U-12 (FFP) の大会を使った、2017年度U-18審判員・地域FA及び都道府県FA育成担当インストラクター研修会に育成担当インストラクターとして参加させていただきました。この大会はJFAが主催する審判研修会の中で都道府県U-18審判員、インストラクターが一同に会する大規模な研修会です。試合はU-18審判員が1人審判で行う大会です。栃木県からはユース審判員として吉川祥太郎さん、

JFAインストラクターとして鈴木武明氏（栃木県審判委員長）、育成担当インストラクターとして私が参加しました。

8月2の朝に宇都宮駅を出発し、午後12時に集合場所である三島駅に到着すると駅前のロータリーはユース審判員と都道府県インストラクターでいっぱいでした。3台の貸し切りバスにて宿舎の帝人アカデミー富士へ向かい、到着後すぐに講堂に集合し、JFA レフェリーデベロップオフィサー(RDO)の高橋武良氏の進行で開講式が行われました。ここで、U-18審判員には「基本にシンプルに」、育成インストラクターには「チャレンジ」という今回の研修会におけるテーマが伝えられました。8グループに分かれ、私たちのグループはユース審判員5名、審判インストラクター5名で構成され、統括でJFAインストラクターの藤ヶ崎敦氏にご指導いただきながら、午後3時30分から時之栖グラウンドにてユース審判員の試合分析、指導を行いました。夕食後はユース審判員、インストラクターと別々に研修を行い、「研修の目的と進め方」「指導者としての役割」の講義を受け、初日が終わりました。



前列右端が筆者

2日目、午前中はJFAインストラクター藤ヶ崎氏による「正しい判定のために」と瀧野氏による「ポジションと視野」という講義を受け、「正しい判定をするために」＝「適切な角度、距離」「気づきと予測が」大切で、また「ポジションと視野」＝「自分の位置や選手の位置」「スペースやボールホルダー、副審の位置」も頭の中で整理して準備することが大切だとご指導いただきました。講義の後に休憩をはさみ、帝人アカデミーの人工芝グラウンドにてプラクティカルトレーニングを2セッション行いました。三宅氏による「争点を見るためのポジション」と鈴木武明氏による「オフサイドの見極め」というもので、休憩前の講義と共通する部分があり指導にも、流れと一貫性があ

り、大変勉強になりました。午後からは午前中に学んだことを意識しながら、ユース審判員、育成インストラクターともに試合に臨みました。夕食後はユース審判員の試合分析からの課題抽出という事で、特性要因図（フィッシュボーン）で課題抽出をして私たちグループのユース審判員の課題を選定し、明日以降の指導のねらいを共通認識しました。

3日目、午前中は「競技規則を学ぶ」というテーマでJFAインストラクターの高橋氏の講義を受け、引き続きフィットネスインストラクターの牛尾氏には「夏場のコンディショニング」という内容でご指導いただきました。特に夏場の水分補給には塩分補給が大切で、経口補水液が塩分の含有量が丁度良いとご指導くださいました。その後、人工芝にてユース審判員に対しウォームアップ、フィジカルトレーニングなど強度の弱いものから強いものまで行われ、普段のトレーニングにも役に立つ内容でした。午後からは「技術との協調」としてJFAの技術スタッフからの年代別の日本サッカーについて説明があり、どのように世界で活躍できる選手、チームを作るかを審判とともに作り上げていきたいとお話しいただきました。

夕方から夕食をはさみ、講義とプラクティカルトレーニングシートの作成の時間になり、私たちのグループは「予測」と言うテーマに絞って、プランニングをしました。講義のプレゼンは私が発表することになり、これも育成インストラクターのテーマである「チャレンジ」だと思い、思い切ってやってやろうと思いました。プラクティカルトレーニングの方は裏方に回り、夜遅くまでインストラクターの立ち位置やオーガナイズについて議論しました。

4日目、午前中は裾野グラウンドに出かけ試合分析、指導を行い、午後からはユース審判員に対して講義を行いました。内容はパワーポイントを使い、またフィールドシートも活用するといった2段構えで行い、チュータリングといわれる方式のプレゼンを行いました。思いのほかユース審判員の反応も良く、時には話が脱線する場面もありましたが、審判員の頭の中には「予測とは何か?」が残ったと思います。次にプラクティカルトレーニングをフォローする形で行いましたが、計画した内容（やり方）が少し変更になり、テーマ自体は変更になっていなかったのですが、スムーズに行うことが出来ませんでした。振り返りではトレーニングサイクルを回せるかどうか？回せたかどうか？をとわれ、ユース審判員が自ら考え、気付き、

学ぶものではないといけないとJFAインストラクターの方々にアドバイスを頂きました。



プレゼン風景（中央が筆者）

5日目（最終日）この日の朝に富士山がようやく顔を出してくれて、私は「今日はなんだか幸先がいいぞ」と思いながら朝食を食べ、試合会場に向かいました。残り3試合を3人の主審に割り当てをして、5日間の総仕上げのつもりでピッチに送り出しました。私たちのグループのユース審判員はみんなまじめで取り組み姿勢も良かったので、試合も無事に終了することが出来ました。そして成長の幅はあるにせよ、初日とは見違えるようなレフェリングを見てくれた時は、胸が熱くなりました。別れの時が来たときは、ユース審判員、都道府県インストラクターともに名残惜しい気持ちになり、各地元での活躍を期待し、どこかで再会できることを約束して富士山の麓を後にしました。

今回の研修会で、ユース審判員がこんなにも情熱があり、審判が好きでサッカーが好きだということを知りました。そして、幅広い年齢層、職業など様々な環境の方と出会えたことは今後の人生、審判活動においても素晴らしい経験になったと思います。私は普段、社会人を中心に活動していてユース年代はお手伝いでしか関わりがありませんでした。今後は積極的に活動の場を広げ、ユース年代にも関わりを多く持ちたいと思います。

最後になりますが、栃木県の代表として参加させていただいたことに感謝申し上げます。そして、これからサッカーを担うユース年代の選手、審判員の活躍を祈念して研修会の報告とさせていただきます。

## 韮崎フェスティバルに参加して

3級審判員 杉山 秀人

最初に私の自己紹介をさせていただきます。私は、昨年文星芸術大学付属高等学校を卒業し、今年白鷗大学に入学しました。審判を始めたきっかけは、選手をしていた時から審判に興味は持っていましたが、現役を引退した後もサッカーに関わっていきたいと思い、本格的に審判活動を開始しました。そんな私が、8月18日から20日の3日間、山梨県韮崎市で行われた第4回関東審判研修会・第37回韮崎フェスティバルに参加させていただきました。この大会は、関東近辺の各都県から強豪校が集まる大会であり、今回で37回目となりました。審判員は関東各都県から計25名が参加し、栃木県からは私を含め3名が参加致しました。私は、関東の研修会であるもの、3級での参加でした。関東サッカーリーグ審判委員会のスタッフが8名参加し、試合後の反省会や夜の研修を通して審判員はきめ細かくレベルの高い指導を受けることができました。

今回の研修会のテーマは「動きとポジショニング」でした。関東の上荒指導部長からは良いポジショニング、良い角度に入ってもプレーが見えなければ意味がないというお話を聞きました。だから、適切なポジショニングとは、正しい判定を下すことが出来る所だと改めて思いました。そのため、審判員は走らなければいけないと思います。

また、私はこの研修会に参加するにあたって、「全力を出し切る」という目標を掲げていました。韮崎フェスティバルは関東研修会の中でも幾分かハードな大会であり、主審・副審合わせて3日間で4試合を行いました。韮崎はとても暑く、体力的に、また精神的に負けそうになった時に強い気持ちで全力を出し切ることが、自分を成長させる方法であり、この研修会に推薦していただいたことの責任であると感じました。私が担当した主審1試合では全力を出し切ることができ、自分でもある程度満足のいくレフェリングをすることができました。しかし、課題もたくさんありました。これからは、その課題を一個ずつ直していくように取り組んでいきたいです。

このような研修会に参加することの大きなメリットの1つは、他県の審判員と交流し、新たな発見ができることがあります。各県審判員の方々の良いところを見つけ、栃木県の審判仲間と共有することによって、より良い審判活動に繋げることができます。

最後に、今回この韮崎フェスティバルは関東の研修会のも関わらず、3級の私を参加させていただきありがとうございました。日頃よりお世話になっている皆様に心より感謝申し上げます。少しでもステップアップし、栃木県のサッカーに貢献できるように、これからも審判活動に精進してまいります。



韮崎フェスティバルにて 右端が筆者

## 4種審判委員長あいさつ

4種審判委員会 委員長 高瀬 亮

「少年の審判は楽だ。」こんなイメージをお持ちの方もいるかもしれません。確かに、社会人や高校生の試合に比べてピッチが狭く、激しいプレーも少ないですが、少年の試合ならではの難しさもあります。私は、

「少年（4種）の審判」という括りは好きではありませんが、少年連盟の取り組みを紹介することで、少年を中心に活動している審判員も頑張っていることを理解していただければと思います。



平成28年4月16日、矢板市の研修会場には、58名の3級審判員が集まりました。「第1回審判アドバイザー宿泊研修」です。少年連盟では、各チームに帯同する審判員の実技研修会を実施しています。その際の指導的立場になる方を「審判アドバイザー」として、年1回以上の研修会を行うことにしました。これにより、指導方針の統一化や指導力向上を図り、各地区の審判員へ適切な助言ができるようにしています。また、その後に行った懇親会にも多くの審判員が参加してくださいり、地

区の枠を超えた「つながり」ができたと感じています。今年も4月に「平成29年度第1回審判アドバイザーレンジ」を実施し、80名の3級審判員が参加しました。今年は宿泊研修ではありませんでしたが、競技規則の確認や指導法についての研修に熱心に取り組む姿が印象的でした。審判アドバイザの方には、各地区の審判実技研修会はもちろん、県トップリーグ戦での審判へのアドバイスをお願いしています。選手のレベルだけでなく、審判員のレベルも高めていくように、地道な取り組みですが、継続していきたいと思います。

また、各チームの帯同審判員の皆さんには、リーグ戦の開始に合わせてルール研修会に参加しています。昨年度は、大幅な競技規則の改正について理解するよい機会となりました。また、実技研修会では、担当の試合の審判に熱心に取り組み、今後の試合に生かせるようにしています。選手である子どもたちが、安全に安心してプレーできるように、各チームの審判員の皆さんには努力しています。

よい審判員はすぐには育ちませんが、このような取り組みを継続していくことが大切であると感じています。研修に参加することは大変かもしれませんが、試合をコントロールする審判員にとって、正しい知識や技能を身につけることは重要なことです。競技者のために、子どもたちのために、そして少年サッカーの発展のために、今後も御協力をお願いしたいと思います。

最後になりますが、少年連盟の最大のよさは「つながり」です。研修等に参加することで新たな発見があったり、つながりができたりします。実際に、各地区の審判員の皆さんと顔を合わせて話をしたり、一緒に審判を担当したりすることで、悩みを共有できたり審判仲間としての輪が広がってきたりしているのを感じます。その象徴だったのは、8月に行われた「関東少年サッカー大会」です。2日間で延べ80名以上の審判員が参加してくれました。これだけの審判員が参加してくれたことに感激しました。

審判について学ぶ機会（＝研修など）とそれを発揮する機会（＝大会など）を大切にし、その中で多くの学びや出会い、交流があることが少年連盟の審判のよさであると感じています。これからも、皆さんとともに審判を楽しみ、審判を通してつながりができるることを期待しています。最後に、これまでの御協力・御支援に感謝してあいさつといたします。

## ＜関東大会in栃木の様子＞



## バーモントカップ 全日本少年フットサル大会に参加して

フットサル3級審判員 藤田尚弘

私はフットサル3級審判員ですが、バーモントカップの全国決勝大会に審判員(副審のみ担当)として派遣される機会を得て、8月19日(土)に東京の駒沢オリンピック公園屋内球技場での大会第2日目に参加してまいりました。そのときの様子を報告したいと思います。

当日は午前5時55分の電車に乗り8時前に駒沢大学駅に着きました。天気も良く、その日の夕方このあたりがテレビのニュースにも取り上げられる大変な状況になるとは想像もできないですがすがしい朝でした。

大会2日目、屋内球技場では審判16人が4人1セットで4試合ずつ担当になりました。私は神奈川、埼玉、東京から派遣の2級審判員3人の方とセットになり、1次ラウンド第3戦3試合と決勝

ラウンドR-16 1試合の第3審判とタイムキーパーをそれぞれ2回ずつ担当しました。担当試合は事前にキックオフで通知されていました。

朝は審判控室で出席確認の後簡単なミーティングがあり、会場リーダーから「1会場2コートではあるが、この大会に参加しているレベルの選手は隣のコートの笛の音には影響されずにプレーを続けられるので笛を変える必要はない。」などの話があり、その後ボールの空気圧チェックからピッチチェックになりました。私は第1試合の第3審判だったのでタイマーやファウルカウンター（電子式）のチェックをしましたが、県リーグなどで使っているタイマーとは違いコンピュータ連動のタイマーで操作に不安がありました。でも、回りの審判の方々が丁寧に使い方を教えてくださり何とか試合開始までに操作できるようになりました。

いよいよ2日目第1試合、ピヴォ（静岡県）と青森FC U-12（青森）の対戦。両チームとも2勝しており決勝ラウンド進出がかかった試合です。ロビーでの選手チェック、ピッチ入場、両チームにタイムアウトカードを渡して先発チェックと一瞬たりとも気の抜けない時間が過ぎます。カントダウンから定刻の9時30分にキックオフ。試合は開始2分までに青森FCが4点リードしますが、その後ピヴォが4点を返し4対4の同点になるという手に汗握る展開となりました。選手も審判も試合に集中して見応えのある素晴らしい試合が目前で行われました。この試合の結果ピヴォはグループ1位で、青森FC U-12はワイルドカードで2チームとも決勝ラウンドに進みました。ピヴォは今大会優勝しました。試合後は公式記録の確認をし、次の担当試合の打ち合わせを行いました。このような流れで1次ラウンド3試合を担当しましたが、試合の前・後半開始時と終了時には審判4人がお互いに握手を交わすことで信頼関係を確認しチームとしての一体感を感じながら試合を担当することができたように感じました。また、試合の入れ替わりで審判団がすれ違う際にもお互いに握手をして励ましやねぎらいの言葉をかけ合い、会場担当の審判全員で試合を進めていくという雰囲気を作り出しているように思いました。

1次ラウンドが終わり、決勝ラウンドR-16までの間にエキシビションとして、元フットサル日本代表監督のアデマール・ペレイラ・マリニョ氏、元サッカー日本代表の福西崇史氏と鈴木啓太氏、元フットサル日本代表の北原亘氏、鳩野大介氏、小山剛史氏、お笑いタレントの加藤ディエゴマラドーナ氏、フットボールのパフォーマンス集団・

球舞の3名の計10名がゲストに登場し、2チームに分かれて参加チームと対戦しました。選手たちは、試合と同じように勝利を目指してプレーしていましたが、トップレベルの選手の技に翻弄されている場面も見られました。

この間に審判員は控え室に集合して、午前中に指摘された問題点について今後の試合での対応にミスがないように全員の共通理解が得られるまで打ち合わせを行いました。みんな真剣に意見を出し合い判定にぶれがないようにしようとする気持ちが感じられました。

決勝ラウンドR-16では16時15分開始の大坂セントラFC対青森FC U-12のタイムキーパーを担当しました。この試合は2-1で大阪がリードして迎えた後半、残り3分で青森が同点に追い付きますがその1分後、大阪が決勝点を決め、3-2で大阪が勝つという劇的な戦いでした。勝利をめざす選手たちの気迫と、試合を正しく導いていこうとする審判団の決意が感じられ、終了のホイッスルの後やり遂げたという充実感がある試合でした。これで自分の割り当ては終了しましたが、この後駒沢オリンピック公園周辺が豪雨に見舞われ、Aコートが雨漏りで浸水し、試合が中断しました。試合はBコートの試合終了後、Bコートで最後まで行われました。私も電気機器の避難を手伝わせていただきましたが、運営や審判の方々が裸足になって水の処理を行っていました。

以上が自分が参加させていただいた1日の報告です。3級審判員の自分に全国大会参加という貴重な体験をさせていただいた方々に深く感謝いたします。

以上



筆者



バーモンドカップ会場風景

## 「シニア」と言えども、 侮ることなれ

シニア審判委員長 青木 均

「シニアにも、審判委員会があったんだ・・・。」残念なことに、そんな声を時折耳にします。今回、原稿執筆の依頼を受け、シニア審判委員会の存在を知ってもらえる良い機会と捉え、限られた紙面に日頃の思いや活動の一部を書かせていただきます。

シニア委員会は、O-40、O-50、O-60(※「O-40」…オーバー40の略、つまり、40歳以上のカテゴリーの意味)の各種大会(リーグ戦、トーナメント大会)を開催し、自分のチームから4名の審判を出して、自分の試合の前か後合の審判を努めます。そのような現実を踏まえ、県協会のアクションプランには、「① 各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。」「② シニアの各カテゴリー(O-40 からO-60 まで)において、最新のルールを正しく理解させ、年1回以上研修会を行う。」を掲げています。シニア委員長の福田治氏の協力もあり、登録チームを対象に、年度途中で実技研修会を行ったり、シーズン前には新ルールの解説を行ったりしました。



[関東シニアO-50での集合写真。筆者は前列中央]



今年度は、O-40(7月2日)とO-50(4月30日)の関東大会が栃木県で開催され、運営は県内全ての登録チームが分担し、審判は県内の3級以上の審判員が協力をしてくれました。O-50(4月30日)の関東大会において自分は、栃木県の代表チームの選手でもあったので、審判員から外してもらい、大会当日は、16名の優秀な審判員(上記写真)にお願いし、無事、大会を終えることができました。交代は自由で、ボールの重さは軽量ですが、それ以外は、第一種のルールとほとんど変わりません。往年のプレーが見事な技を見せることが多々ありましたが、珍プレーも続出でした。どんなカテゴリーでも、審判員は「走ってなんぼの世界」にあり、気を緩めるとラインキープが疎かになり、正しい判断ができなくなります。また、プレーヤーは第3の手を伸ばして小ずるいファウルをしたり、審判にクレームを付けてみたりして、見苦しい場面もありました。いかなる場面においても、審判員は、「ダメはダメ」とクールに判定し、正しく運用しなければなりません。小さな事でも見逃すと、「この審判はカモだな」と思われ、舐められてしましますので、要注意でした。

O-50(4月30日)と O-40(7月2日)の関東大会における審判は、それぞれの大会を16人で分担しましたが、16人の侍(サムライ)は、毅然とした態度で、正しくジャッジをくだし、全試合の全責任を全うしてくれました。うれしい限りでした。

(残念ながら、O-50栃木県代表の我がチーム「栃木教員マスターズ」も、O-40栃木県代表の「矢板クラブ」もは、大阪府開催の全国大会の出場権を得られませんでした。)





以上のように、シニアの様子を書かせて頂きましたが、いかがですか。

「シニア」と言うと、選手として肉体的・精神的なピークを過ぎた人たちのサッカーというイメージなのかなと思いますが、サッカーの好き者が集まり、共に大会を運営し、相手と戦い、磨き合うことでプレーを楽しむことのできる大切な場所なのだと思います。

是非一度、試合会場に来て見てください。



## 2018年度サッカー審判資格更新講習会

No.	月日	曜日	対象	講習会名称	会場	定員
1	10月28日	土	S4級	真岡地区	真岡市二宮分館	90
2	11月4日	土	S2級・3級	県協会	宇都宮市東生涯学習センター	350
3	11月11日	土	S4級	足利地区	足利市生涯学習センター	80
4	11月18日	土	S4級	宇都宮地区(S4)	宇都宮市東生涯学習センター	350
5	11月25日	土	S4級	佐野地区	佐野中央公民館	90
6	12月2日	土	S2級・3級・4級	県協会	宇都宮市東生涯学習センター	350
7	12月9日	土	S2級・3級・4級	県協会	宇都宮市東生涯学習センター	350
8	12月9日	土	S4級	小山地区	小山工業高等専門学校	100
9	12月17日	日	S4級	矢板地区	矢板市生涯学習館	80

◆受付時間 18時30分～

◆講習時間 19時00分～20時30分

4級JFAラーニング

受講期間 2017/10/2～2018/2/26

※詳しくは栃木県サッカー協会HPで確認ください。



## 技術委員会報告

ユースダイレクター 高井 剛

### U14ドイツ～スペイン研修

日本時間の8月17日から29日までの13日間、参加選手26名と帯同スタッフ6名の合計32名で欧州ドイツ・マインツ及びスペイン・マドリッド海外研修を実施した。奇しくも出発当日にスペイン・バロセロナでテロ事件が発生し、100名を超える死傷者を出し遠征時の安否が懸念されることとなった。遠征におけるリスク管理をスタッフ一同及び現地コーディネーターと常々確認し、当然のことではあるが安全への配慮を最優先に遠征を予定通り実施した。

今回の研修の概要及び試合レポートについては別記のためここでは割愛するが、特に強く感じた点について三点述べたい。まず一点目は現地で感じたサッカーに関する育成システムと育成観である。サッカー文化の奥深い歴史の中で有望な選手や可能性の高い選手が移籍できるシステムが整備され、選手の発掘に遺漏がない。トレーニングとOFF（休日）のバランスも良く、常に試合から逆算したコンディション管理がベースにあり、肝心の試合が全力投球で行われている。二点目は現地における日本人の関わりである。現地では多くの日本人の活躍を目にすることができた。マインツではコーディネートをして頂いた山下氏や彼がマネジメントするバサラ・マインツの日本人選手たち、マドリッドではコーディネートの池田氏、和泉氏、そして短期・長期の留学生。ユーロプラス社の計らいでマインツ（武藤選手）とヘタフェ（柴崎選手）戦の観戦もできた。三点目はこの遠征から得た経験をどのように栃木県サッカーに還元するかである。栃木が関東で、日本で優位に立つためにはU8からU10でのサッカーに関われる環境作り、U10でのテクニックトレーニングの徹底が一つのキーとなると考える。詳細については報告書に目を通していただきたい。



2020年以降を見据えた事業

## ① U10地区トレセンサポート

昨年度に引き続き、各地区4年生トレセンの指導を県技術委員がサポートしている。目的は指導者の質の向上であり、U10までに「わかる」「できる」ことは何かをテーマに各地区トレセンの指導者と情報交換をしながら実施している。パス&コントロール、4vs2、6vs6ゲーム（4ゴール）など判断を伴うトレーニングを行っているが、選考過程が地区推薦選手であるため力の差がある状況も見られた。またドリルトレーニングによる技術の躰についてはもう少しチームでの取り組みも必要かと感じたが、コーチングにより、すぐ変わる選手も多かったため声掛けが重要と改めて感じた。



度）に分け、各グループにスタッフ5名を配した。アイスブレイク、ゴールありの1vs1→2vs2と進め、ゴールを決める為に相手と駆け引きすることをテーマにトレーニングを実施した。

各コーチの働きかけは、一人ひとり名前を呼んで褒める・促すことを徹底し、全スタッフ明るく元気に大きな声で取り組んでくれた。その結果、子どもたちからも大きな歓声や悔しがる声、次勝つために工夫することなどが見受けられた。

6vs6のゲームではチームが一体となって戦っている姿が印象的だった。

最後に、本事業運営にあたり、陰ながら支えてくれたスタッフの皆さんに感謝したい。



## ② U9アカデミー

平成29年7月23日（日）真岡市鬼怒わいわい広場（天然芝）において各地区15名ずつ計105名の小学3年生を対象に少年連盟県TCスタッフ及び各地区TCスタッフ、県キッズ委員会スタッフが中心に指導した。当日は、小雨まじりとなつたが、夏開催の中、暑すぎず動きやすい気候となつた。

指導観点を共有しながら、普段と違った刺激を与え、より一層高いレベルを目指してもらうことを目的とし、子どもたちを8グループ（14名程

## 第72回国民体育大会 関東ブロック大会サッカー競技開催

第72回愛媛国体への出場をかけ、成年男子は8月11日（金）～13日（日）に前橋総合運動公園サッカー場、前橋市宮城総合運動公園で、少年男子は8月11日（金）12日（土）に群馬県前橋市の下増田運動場（前橋フットボールセンター）で、女子は敷島公園サッカー場、補助陸上競技場で関東ブロック大会が開催され、栃木県チームも本大会出場を目指し、激闘を繰り広げてきた。

## 第72回国民体育大会 関東ブロック大会

栃木ウーヴァFC 堀 陽二

この度、第72回国民体育大会サッカー競技に栃木県を代表して参加してきました。（公社）栃木県サッカー協会をはじめとする皆様方に多大なるご理解とご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございました。

本大会に向けて、「チーム栃木」の色を前面に押し出すべく、今年は選手・スタッフ選考の段階で幅広いリサーチを致しました。その結果、JFLに所属する栃木ウーヴァを中心に、関東リーグのヴェルフェたかはら那須様、地元大学リーグの作新学院大学サッカーチーム様のご協力いただき強力なメンバー構成で挑むことが出来ました。また、スタッフ派遣では栃木SC様にもご協力いただき、充実したチーム・スタッフ体制を構成させていただきました。

我々「チーム栃木」は、事実上の決勝戦と言われたハイレベルなゲームを繰り広げたものの、初戦で群馬県国体に0対1で惜敗してしまいました。

Jリーグ選手で構成された群馬県国体に対し、試合の主導権を握り、多くの決定機を演出しながら、個人能力で勝る相手に1チャンスで1失点を献上し、悔しい敗戦となりました。

今回、サッカー競技を通じて県内の多くの仲間との出会いがあり、交流を深め共に闘えたことに感謝いたします。また、多くの関係者様のご協力をいたしましたこと、特に栃木県社会人サッカー連盟の鈴木篤様には様々な場面でご尽力いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。これからも栃木

県サッカーのレベル向上に微力ながら貢献していきます。ありがとうございました。





## 2017国体チームの活動を振り返って

山崎 透

2017国体チームは、2016年度の反省・経験を活かしていくこと。スタッフと話し合いを重ねていく中で、関東ブロック大会を勝ち抜き、本大会に出場することを目標に設定しました。関東トレセンリーグの3試合では当然結果も意識しながら、大きくは関東ブロック大会に向けての方向性を示す為の準備としました。まずは昨年同様に早生まれ選手を対象とした選考会を行い、そこで選考した選手を今年度は2月下旬に波崎で行われた集中開催の関東トレセンリーグに参加してもらいました。その後U15セントラルトレセンメンバーと中体連選手の推薦選手、県外出身者を対象とした選考会を行い、関東ブロック大会までの3試合に臨む31名の選手を選考して、本格的に活動がスタートしました。今年度は関東ブロック大会に合わせていくことで、出来るだけ多くの選手をピッチに立たせることも一つの目的としました。結果関東トレセンリーグで28名の選手を起用することが出来ました。関東の強豪他県と戦う中で、どのような気持ちを持てるのか、どのようなプレーが出来るのかを見極めていきました。第1戦の神奈川県との試合では、立ち上がり積極的にプレーし、決定機も作るなど良い試合の入り方が出来ましたが、20分過ぎに失点をしてから一

気に崩れてしまい、結果大敗となってしまいました。5月の2戦目に向けては守備ブロックの再構築とメンバー構成を変えてトレーニングを重ねていきました。まずは失点をしないこと、仮に失点をしてしまっても最少失点で試合を進めることを共有していました。第2戦目の東京都との試合では立ち上がりに失点をしてしまい、苦しい試合の入り方となっていましたが、その後粘り強く守備をして徐々に相手ゴールに近づいていくことが出来ました。後半流れを引き寄せ、一時逆転し、チームの雰囲気が最高潮になりましたが、終盤に逆転されてしまい、敗れてしまいました。第1戦目から守備を立て直すことを考えて第2戦目を迎える、3失点をしてしまったことは残念ではありましたが、どちらに転ぶか分からない試合に持ち込んだことに関しては大きな成果のある試合となりました。第3戦目は7月に行われ、その間インターハイの予選、クラブユースがあり、昨年同様自チームで中心選手も多く、全員が揃う日が無く難しい期間でしたが、6月のトレセンマッチデーでは先生方のご協力により、インターハイ予選決勝戦の後に栃木県グリーンスタジアムで国学院栃木高校とトレーニングマッチを行うことが出来ました。憧れのスタジアムで試合が出来たことは選手にとって良い機会がありました。第3戦目の埼玉県との試合では、より関東ブロック予選を意識すること、那須スポーツパークで栃木県開催の試合ということで皆の力を合わせて勝利を掴み取ろうということで試合に臨みましたが、相手の圧力と前半に退場者を出すなど苦しい試合となってしまいました。第1戦目と同様に大敗となってしまいました。退場者を出して1人少ない中での後半の戦いぶりは見事で選手はよく頑張ってくれました。この後半の戦いが関東ブロック大会に向けての方向性、戦い方を選手、スタッフで共有することが出来ました。そういう意味では大敗はしましたものの次に繋がる試合になったと思います。関東ブロック大会前の3試合が終わり、関東ブロック大会に向けてはチームとして守備をしっかりとすること、狙いを持って守備をすること、良い守備から良い攻撃に繋げること、守備で主導権を握っていくことをコンセプトにしました。トレーニングマッチの中で守備ブロックの立ち位置、味方との距離間を植え付けて、回数を重ねていきました。心理学の笠原先生のアドバイスを受け、関東ブロック予選が行われる群馬県でもトレーニングマッチを行いました。宿泊を伴う遠征では茨城県で遠征を行いました。関東ブロック大会では2試合勝たないので、茨城遠征では守備意識をより高めること、大学生相手

にもどれだけ食らいついでいるか、連戦に耐えるメンタリティーを備える為に筑波大学、流通経済大学、福島県少年国体チームと試合を行い、素晴らしい環境の中で、試合をすることが出来、寝食を共にすることで結果を高めることができました。内容的にも手応えを十分に感じることが出来た大変有意義な遠征となりました。2日目午前、午後で連戦を行った為現地に宿泊し、翌日栃木に戻り、リカバリーをしてそれぞれ一旦帰宅させました。次の日再集合し、栃木県内で調整合宿に入りました。昨年度の反省から緊張感を持たせる為に調整合宿初日に宇都宮白楊高校とセットプレーも入れながらのトレーニングマッチを行ってもらいました。2日目は攻守でのセットプレーと3バック、パワープレーの確認を行い、昼は皆で食事をし、決起集会を行いました。3日目はコンディションを調整し、午後心理学の講習を受けて群馬県前橋市に入り試合会場を視察して宿舎に入りました。関東トレセンリーグで結果は伴いませんでしたが、関東ブロック大会に向けた戦いの上積み、昨年の経験から多くの選手を起用し、競争すること、茨城遠征、調整合宿を経て十分に手応えを感じて関東ブロック大会当日を迎えることが出来ました。関東ブロック予選初戦の相手は山梨県。結果は残念ながら延長戦の末、敗れてしまいました。昨年の反省を踏まえ試合の入り方を重要視しましたが、気持ちの面で受けすぎてしまったかなと思います。前半の半ばに対応ミスから失点し、攻撃のリズムを中々掴む事が出来ない中で後半追いつき、その後逆転出来るチャンスもあったこと、延長戦まで持ち込む事が出来たことは選手の頑張りに尽きます。昨年度に引き続き、関東ブロック予選で本来の持っている力を発揮させる事が出来なかったことは監督である自分に責任があります。最後まで勝利の可能性を残し、全力でプレーしてくれた選手、多くのサポートをしてくれたスタッフに感謝しています。

今年度の国体チームの活動を通して、昨年度も言いましたが、栃木県の選手達は、関東のレベルの高い地域においても十分に戦える力はありますが、その力を公式戦で発揮する為のメンタリティーは備えていかないといけないと思います。日常から変えていくこと、高い意識を持ってサッカーに取り組むこと、日々のトレーニングからインテンシティを上げていくこと。プレー面では守備の考え方を、より高めていかないといけません。ボールを持つこと、攻撃をしていくということは当然追求していかないといけませんが、勝負の掛かった試合では、高い守備意識が必要です。小さい年代、常日頃から個で

ボールを奪う力、グループでボールを奪うことの力を上げていくことで、より良くなるのではないかと思います。厳しい試合の経験も必要です。我々指導者も現状にしっかりと目を向けながらも高い基準を示すこと。高い基準で攻守において追求すること。内容と結果にも拘り、トレーニングの意識、オフザピッチでの立ち振る舞いを変えていくことが、厳しい試合を勝ち抜くことに繋がっていくのではないかと思います。

最後に国体チームを活動するに当たって多くの選手を送り出して頂きまして本当にありがとうございました。練習試合、会場提供などたくさんのご協力も頂きましてありがとうございました。昨年度に同様に、トレセンマッチデーも含めまして関東ブロック大会では群馬県まで足を運んで頂きましてありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。





## 第72回国民体育大会 関東ブロック大会総括

県女子技術委員長／国体女子監督 手塚貴子

### [チーム構成]

昨年度は単独チームでの参戦であったが、今年度は、県内でのリーグ戦や県トレセンU-18で活動している選手と県内出身者で現在は県外の大学で活動している選手（ふるさと選手制度）でチームを構成した。（社会人6名、大学・専門学生4名、高校生6名）

### [ゲームコンセプト]

国体チームとしての練習時間が少ない中で、対戦相手が強豪の神奈川県であり守備の時間帯が多いことが予想されたため、しっかりとブロックを形成して組織的に守り、ボールの奪いどころをチームで共有することに重点を置いた。また、攻撃に関しては味方の特徴を活かしてシンプルにゴールを目指すことを意識させた。

### [試合結果及び成果と課題]

試合結果は0-4（前半0-1）で敗退。

#### ◎成果

試合全体を通して、守備の狙いとしてきたボール

の奪いどころを共有して、ボールを奪うことはほぼ出来ていた。55分までは1失点に抑えていたので、その成果は十分に出ていたと思う。結果は4失点だが、崩されての失点ではなかった。

#### ◎課題

ゴール前でのボールへのアプローチの弱さや危険を察知する能力（判断ミス）が失点に繋がってしまったので、ゴール前でのボールへの執着心を向上させることは今後の課題である。更に、意図的にボールを奪えた後の攻撃に繋げる展開力、判断力が低く、ボールを奪ってもすぐに失うことが多かった。また、ゴールを狙う（シュートの）意識も低く（神奈川シュート数14本、栃木は4本。）、今後はシュートのイメージを多く持つことやゴールを目指すコンビネーションが必要になるだろう。

### [最後に]

本県では、ようやく中学生・高校生年代の県トレセンが活性化されてきた。しかしながら高校生年代で県外に出る選手も多く、大学サッカーにおいては全てが県外に出ざるを得ない状況にある。その中で、国体選抜チームを編成するにあたり選手の確保が非常に難しい現状で、今後は、県内チームの協力を得て「ふるさと選手制度」の対象となる選手を把握し、県内で活躍する選手の強化策と併せて、次年度のチーム編成を考えていきたい。



2017年度 (公社) 栃木県サッカー協会賛助会員ご芳名 (敬称略) 2017年9月27日現在

奥澤 直人

株式会社 栃木サッカーカラブ

FCグランディール宇都宮

石崎 洋子

ミドリ薬局

猪瀬 和人

宇都宮大学サッカーボーOB会

円印刷株式会社

株式会社 極東体育施設

揚茜カラブ

ユー福祉タクシー

SAKURA FOOTBALL CLUB

FC西那須21アストロ

安達 賢二

鹿沼フットボールクラブOB会

野木SSS

NPO法人たかはら那須スポーツクラブ

日光スポーツクラブ



人と自然が調和した街づくりを目指す  
**鈴運メンテック株式会社**



- 一般廃棄物の収集運搬
- 産業廃棄物の収集運搬
- 重機・一般貨物の運搬
- 倉庫の賃貸及び保管管理
- 高速道路の維持管理

〒320-0857  
宇都宮市鶴田2丁目2番10号  
TEL 028-648-6241(代)  
FAX 028-648-8318  
<http://www.suzuun.co.jp>

オフィシャルサプライヤー  
**ミズノ株式会社**

- 発行
- 編集
- 発行責任者
- 印刷所

- 公益社団法人 栃木県サッカー協会
- 公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会
- 星野務、村上富士夫
- 円印刷株式会社